

通商局

F. 2. 0. 6

米局
公第五五號

昭和六年七月七日

第一課

在オデツツ

領事 田中文一

外務大臣男爵幣原喜重郎殿



「ソ」聯邦經濟狀況ニ關スル件

本年前半期ニ於ケル「ソ」聯邦經濟狀況ニ關シ別紙ノ通リ茲ニ報告申
進ス

昭和六年七月廿七日接受

別紙添付

記

11

昭和六年七月七日

「ソ」聯邦經濟狀況

(一九三一年前半期)

在オデツツ日本領事館

BII

E-0285

目次

- 一 農業上ノ成功
- 二 工業ノ缺陷
- 三 「ドンパス」炭坑
- 四 製鐵業
- 五 建築材料
- 六 其他ノ工業
- 七 鐵道運輸狀況
- 八 財政

(終)

B11

一 農業上ノ成功

本年春蒔作物ノ作付運動ハ昨冬以來「ソウエト」當局及黨部カ熱心勞カセル處大體ニ於テ成功シ聯邦農務部ノ表發ニ依レハ六月二十日現在ニテ全國合計九千五百二十三萬五千「ヘクタール」ノ作付アリ豫定「プラン」ノ九五三%ニ當ルカ之ヲ昨年同期ニ比スレハ七九%ノ増加ニシテ又豫定「プラン」實行程度ニ於テモ成績良好ニシテ昨年同期ニハ九三%ヲ實行セルノミナリ

之ヲ社會的ニ區別スレハ左ノ如シ(單位千ヘクタール)

B11

E-0285

一九三一年 一九三〇年

「コルホズ」 五八五九二 三二六三二

内MTC 二〇二六六

「ソフホズ」 八五〇六^レ 三九三〇³

個人農家 二八一八五 四九八三九

計 九五二三八 八五四〇一

之ヲ作付段別ニスレハ左ノ如シ

一九三一年 對「プラン」% 對前年同期

作付段別

小麥 二五二八〇 九〇三% 一〇六六%

大麥 六三八三 九一二% 九〇七%

燕麥 一六六〇九 九三三% 九三七%

B11

棉花 三五一二 一〇九二% 一六〇四%

甜菜 一四九四 一〇四六% 一三〇七%

豆 麻 三九一三 一一六五% 一二九七%

日向葵 四五四八 九二八% 一三二二%

右ノ如ク本年作付段別ハ増加シ豫定計畫ハ穀類ニ於テハ殆ント全部、工業原料作物ニ於テハ好成績ヲ擧ケタリ

今後注意スヘキハ其作物ノ如何ニアルカ冬時穀物ハ全國ニテ小麥約千五百萬「ヘクター」、³「ライ」麥二千四百萬「ヘクター」ナル處「ウクライナ」西部~~及~~南部ニハ冬期極寒ニシテ降雪少ナカリシ爲今ノ處ニテハ平作以下ナルヘント豫想セラレツ、アリ

若シ穀類ノ作物カ今後ニ於テ改善セサレハ昨年ノ如ク二億留ノ外國輸

B11

E-0285

出モ覺束ナク「ソ」聯邦經濟上ニ大打撃ヲ來スヘシ
農業上重要問題タル農業ノ社會化、農家ノ「コルホズ」加入ハ政府及
黨部ノ方策殊ニ辛辣ナル壓迫モアリタル結果豫定計畫ヲ遂行シテ且ツ
之ヲ超過シ聯邦政府農務部ノ發表ニ依レハ六月二十日現在全國「コル
ホズ」數二十一萬六千五百組合其加入農家千三百四十九萬九千戸全國
貧農及中農總數ノ五四七%ニ當リ主要農耕地方タル「ウクライナ」ノ
「ステブ」、北高架索、「ウオルガ」河下流地方ハ八割以上ヲ占ムル
ニ至レリ右ハ全農家ニ對スル割合ニ非サルモ右以外ノ所謂富農ハ極少
數ナルヲ以テ本年末ノ全國平均全農家ノ五割主要農耕地方ニ於テハ八
割以上ヲ加入セシムルノ「プログラム」ハ實行セラルヘシ而シテ「コ
ルホズ」ノ作付成績モ前ニ記セル通り豫定以上ナルヲ以テ此二點ニ於

BII

テハ成功セルモノトス

二 工業ノ缺陷

工業ハ石油採取高ハ本年三月中既ニ五年計畫末年度ノ高ヲ突破シ機械
製造、自動車「トラクター」、裁縫業、電気工業、製革、毛織紡織、「
メリヤス」製造、絹業等ハ「プラン」以上又ハ之ニ近キ成績ヲ擧ケ居
ルモ其他ノ工業部間ニ於テハ豫定計畫ハ實行不能ニシテ殊ニ礦業、延
藥材料等重工業ニ於テ甚シク工業全體ノ五ヶ月ノ成績ハ豫定「プラン
」ノ八一%ヲ實行セルノミニシテ之ヲ五年計畫ノ初二ケ年ノ實行程度
九五八%、特別期ノ九〇%ニ比セハ一割ノ減退ナリ而シテ工業ニ對ス

BII

E-0285

ル投資額ハ一九三〇年中ニ前年ヨリ一六%増加セルニ本年初メ五ヶ月ノ總生産額ハ増率ヲ示サス

本年及前年期ニ於ケル工業ノ不成績ノ原因ニ付キ當局ハ季節的現象ニシテ今ヤ此缺點排除ノ方策成リ本年度統制數字ニ定メタル處ハ全部實行シ得ラルヘント稱シ又後半期中ニ全體實行ヲ期スヘク努力スヘント稱シ居ルモ昨年ハ後半期ニ於テ「プラン」實行不能ノ度著シクナリ本年上半期ニ於テモ統制數字方膨大シタル結果ニモ依レトモ實行不能ノ程度更ニ深刻トナリ労働力ハ不足シ能率ハ却テ低下シ機械力ノ使用ハ未タ不足シ組織及之ニ對スル準備ニモ缺陷アルヲ以テ本年度ノ統制數字ノ所定ノ實行ハ頗ル疑ハシク計畫ハ過大ニ失スルノ結果ニ至ラサルヲ得サルナリ

BII

三 「ドンバス」炭坑

「ドンバス」ノ採炭成績ハ本年第一期ニハ豫定高千五百噸ニ對シ九百二十三萬七千噸（最近ノ統計ニハ豫定高千四百五十萬噸ニ對シ採炭實高九百九十六萬五千噸即チ六六%トアリ）即チ六、五%ナリシカ四月ハ前月ニ比シ約一割ノ増加ヲ示シタルモ五月ニハ再ヒ減退シ六月ニ至リ少シク改善シタリ毎月ノ採炭高ハ左ノ如シ

四 月	採炭高（千噸）	對「プラン」	機械堀ノ割合
三三二九四		%	
	六七二		
	五六二	%	

BII

E-0285

五月	三一八五八	六六三	五七八%
六月	三二七三七	六五一	五六一%
計	九七八八九	六六二	

右ノ如ク第二期ノ採炭高ハ豫定ノ千四百七十九萬噸ニ對シ九百七十八萬九千噸ニシテ本年前半年ニ採炭高ハ千九百二萬六千噸ニシテ豫定高二千九百七十九萬噸（他ノ統計ニ依レハ豫定ノ三千四萬八千噸ニ對スル千九百六十七萬七千噸）ニ對シ千七十六萬噸ノ採炭不能ヲ見タリ石炭業不振ノ原因ハ當局ノ發表セル處ヲ綜合スルニ大體左ノ如シ

一、採炭機械化及新機械ノ使用ニ對スル準備及教育並ニ組織不完全ニシテ例ヘハ開鑿機械ハ第一期間ニ約三割ノ増加ヲナセルモ其使用率ハ時ト共ニ下降シ昨年特別期ニハ重型機ハ八四九%第一期ニ七四一

B11

％四月六八、五％五月六八、八％六月六九、八％ニシテ輕型機ハ本年四月三八、七％五月二四％ヲ使用セルノミナリ

二、機械點檢ニ非サル手廻モ又同様ニ不成績ニシテ其豫定「プラン」ノ實行率ハ一月九五％二月六九％三月五六％ナリ

三、現場監督及指導不充分ニシテ之ニ當ルヘキ者ノ養成モ本年第一期ニ於テ三千二百人ノ收容豫定ニ對シ五百四十四人ヲ收容シ其中修了者ハ百四十九人ナリシカ如キ其一例ナリ

四、労働者ハ労働者勤務者共六月ハ二十三萬七千三百三十九人内地下坑夫ハ七萬二千三百九十六人及其他ノ地下労働者七萬三千七百五十一人ナルカ其不足ハ勿論ニシテ其素質ニ付テモ一年以上勤務者ノ割合ハ増加シテ全體ノ四割ニナリタルモ一體ニ年少者トナリ其他ノ労働

B11

者ハ労働條件及給養等ノ關係ニ依リ變動甚クシク毎月ノ移動人數ハ四割ニ及ヒ尙ホ第一期中新募ノ労働者一萬四千二百人他へ轉セル者一萬一千七百人餘ナリト
 其他ニ労働者ノ勤務規律極度ニ弛緩シ重要ナラサル理由ニテ就業セザリシ者第一期ニ三割六分ニ達セリ
 五 採炭組織ニ於テ出來高ニ依リ支拂フノ制度ハ未タ普及セス約五割ナリ
 六 勞銀ノ制度不完全ナリ
 七 支出金ハ適時ニ又其目的ニ使用セラレサルモノ多ク勞銀ハ昨年十月ヨリ本年三月迄ニ七千萬留ヲ豫定以上ニ支出シ労働者ノ住宅拂低ニ不拘第一期ノ建築ハ其費用ノ八%ヲ利用セルノミナリ

B11

八 新坑ノ開鑿及現存坑ノ改造ハ遅々トシテ進捗セス本年初二ヶ月ニ前年八年「プラン」ノ九%後者ハ八%ヲ實行セルノミニシテ新坑ノ開掘ハ設計ノ遅延、材料ノ不足、勞力缺乏、従業員ノ怠惰ニ依リ豫定期間ノ二倍ヲ要スト
 右ニ擧ケタル諸原因ハ當國ノ實狀ヨリ見テ容易ニ多救スヘカラサルモノナリ
 工業用燃料トシテ泥炭ノ利用ハ「ソ」聯邦電化ノ企畫ト同時ニ高唱セラレタル處ナルカ最近石炭ノ採掘意ノ如クナラサルヲ以テ之カ補給ノ爲ニモ一層泥炭ノ採掘ニ注意セラレツ、アルカ現今ノ採掘成績ハ石炭ヨリモ不良ナリ
 「ソ」聯邦石炭採掘高ハ左ノ如シ

B11

E-0285

一九一三年（戦前）	一四〇	百萬噸
一九二二―三年度	三〇	百萬噸
一九二七―八年度	六九	百萬噸
一九三〇年	六五	百萬噸
一九三一年（豫定）	一四六	百萬噸
一九三三年（豫定）	三五〇	百萬噸

本年ハ昨年ニ比シ二倍以上ノ採掘ヲナス豫定ナルカ六月末迄ノ採掘實高ハ機械力八五%勞力七五%現存セルニモ不拘豫定ノ五三・八%ニシテ約三百萬噸ノ不足ナリ五・六月兩月ノ採掘高ハ三百八十五萬噸ニシテ昨年同期ニ比シ五割増加セルノミ

BII

其四 製 鐵 業

製鐵業モ不振ニシテ其生産ハ豫定ノ七割臺ニ在リ本年度ノ「ソ」聯邦製鐵計畫ニ依ル銃鐵八百萬噸鑄八百六十萬噸ノ内製鐵「トラスト」ノ「ウクライナ」ノ「ウクライナ」ニ在ル工場生産ノ成績ハ一九二九―三〇年度銃鐵ハ「プラン」ノ八九%特別期ニ八二%ニシテ原價引下率ハ一九二九―三〇年度ハ一一・八五%ノ豫定ニ對シ四四%ノ引下アリタルノミニテ特別期ニハ低下セスシテ却テ三三八%ノ増加ヲ見タリ

一九三一年ノ「ウクライナ」ニ在ル同工場生産計畫ハ銃鐵ニ付テハ全國ノ六割四八十八萬噸鑄ハ四割七分ノ四百萬噸ナルカ一月ヨリ五月

BII

E-0285

迄ノ五ヶ月間ノ成績ハ銑鐵ノ生産ハ同期間ノ豫定「プラン」ノ七三六%、鋼ハ七〇七%ニシテ此期間ニ生産不足高銑鐵六十萬九千噸、鋼五十八萬六千噸ニ及ヘリ

生産原價ノ低下ニ付テハ第一期八四%第二期九五%低下ノ「プラン」ニ對シ五ヶ月間ノ成績ハ低下ヲ見ス一九三〇年ノ實績ニ對シ一四%ヲ増加シクリ之カ爲メニ生スル缺損額四千萬留ナリ

労働能率ハ第一期ニ豫定ノ六五五%四月七〇%五月六五六%ナルカ労働者ノ平均勞銀ハ大體豫定通りニテ第一期ニハ豫定ノ九六五%四月ハ九八%五月九九六%ヲ支拂タリ

而シテ同工場ノ建築方面ハ本年ノ豫算▲四億二千萬留ナルカ初ノ四月ノ實行ハ僅ニ一一%ナリ

B11

右ノ不振ノ原因ハ大體ニ於テ石炭業ノソレト同様ナリ

建築材料

工業中石炭及製鐵ニ次テ不成績ノモノハ建築材料ノ製造ナルカ其本年ノ製造計畫ハ左ノ如シ

單位	一九三〇年	一九三一年	増率
セメント 百萬樽	二一七	三五	六一三%
シヤモツト 千噸	七六三〇	一、二四七	六三六%
グイナス 千噸	一八三〇	三三八	八五五%
石灰 千噸	一、二四三〇	三〇八七	六八一%

B11

E-0285

アレバストル	千噸	五一三〇	八四四	六四五%
白	千噸	一八四〇	三〇五	六六三%
煉瓦	百萬個	二九〇七〇	四八二四	六六〇%
新材料	百萬留	一七七	七三四	三〇九〇%

其重ナルモノ、本年初五ヶ月間ノ製造^高割合左ノ如シ

セメント	千樽	對「プラン」%	千噸	千噸
一月	一、二〇三	六〇四	三八一	九七
二月	八五九	四一四	二六三	六一
三月	一、二四七	五二七	三二四	四六
四月	一、六九五	六三五	三三七	六六

シヤモツト
グイナス

BII

五月	一、八七二	六七一	四三八	九二
----	-------	-----	-----	----

右ノ如キ不成績ノ原因ハ交通運輸ノ不便及燃料ノ不足等ニ依リ休業ノ止ムナキニ至レル結果ニシテ作業休止率ハ第一期四二%四月三三%ナリシト

六 其他ノ工業

石油業ハ其採取高ハ四月約百六十九萬噸ニ達シ昨年ノ採取高及豫定ノ「プラン」ヲ超過セルカ「アズネフチ」ハ本年前半期ニ六百四十萬噸ヲ採取シ「プラン」ノ九二、八%第二期ハ三百三十三萬噸即チ八九、八%ニシテ半年間ノ採取不足額五十萬噸ナリ石油業ノ缺陷ハ設備及内部ノ

BII

E-0285

組織ニ缺陷アリ時々作業ヲ停止スルコトアリ且其運送機關不足ニテ
オルガ「河ニ依ル輸送量ハ五ヶ月間ニ「プラン」ノ七三%ヲ實行セル
ノミ國內ノ需要ニ對スル供給ハ依然大ニ不足ナリ。機械工業ハ其出來高
ハ五月迄ノ成績ハ昨年同期ニ比シ五割乃至九割ノ増加ナルカ「プラン
」ノ高ニ近キモ製品ニ不合格品多シト
農業機械ノ製造ハ昨年ニ比シテハ二割五分ノ増加ナルモ「プラン」ノ
實行ハ覺束ナク「オデツサ」ノ工場ノ如キハ七割臺ヲ實行スルニ過キ
ス右ハ労働者ノ怠惰、労働組織ニ原因シ且不合格品ノ率多ク供給上機
械部分不揃シテ其機械ヲ使用スルニ至ラサルモノアリ各工場ノ出來高
ハ相當額ニ上レルモ其機械ノ能率ハ遙ニ低位ニ在リ
色金屬工業ハ技術員労働者ノ不足アリ製造機械ノ破損屢アリテ豫定ニ

B11

達セス電気工業ノ出來高ハ五ヶ月間ニ昨年同期ニ比シ四二%ヲ増加セ
ルモ本年中ノ増率豫定六五%ニハ及ハス其原因ハ原料ノ不足ニ在リ製
品ノ品質粗悪ナルコトモ注意セラレ
輕工業ノ五ヶ月間ノ成績ハ豫定ノ九三%ヲ實行シ六月ハ一般ニ豫定以
上ノ成績ヲ示セルカ新規原料ヲ使用スル方面ニ缺陷アリトイフ

B11

E-0285

八七 鐵道運輸狀況

工業ノ豫定計畫實行不能ノ最大原因ハ交通運輸ノ缺陷ニ在リトセラレタルカ其中鐵道運輸最モ甚シク貨物ノ各月一晝夜平均積出貨車數ハ昨年六月以來漸減シタリ

	千車	豫定ニ對スル割合
六月	五六一〇	七六三
十月	四八三	七六三
十一月	四七〇	

BII

十二月	四二六
一月	三八七
二月	三六〇
三月	七九八
第一期平均	七二二
四月	八一三
五月	五二五
六月	五四七

唯本年三月以降機關士ノ受持機關車制度ヲ定メ乗務員ニ對スル走行里數ニ依ル「プレミヤム」設定等ノ改善策ノ結果狀況相良好トナレリ
 荷扱高ハ前半ニ於テ一億一千四百四十萬噸見當豫定高ノ七七八%旅

BII

客ハ「プラン」ノ二百九十六億人軒ニ對シ二百六十一億人軒即チ八八
 %ノ豫想ナリ
 鐵道車輛ノ運轉ニ付テハ實績左ノ如シ
 貨車一晝夜走行里數

	行	豫定	前年同期
一月			
二月	六七		八六九
三月	七三		九三九
第一期	七一	一三五	九〇〇
四月	九〇	一二七	一〇三五

B11

貨物列車用機關車ノ走行里數(單位軒)

	豫定	前年同期
五月	九九	一二七
六月	九五	一二七
第二期		
一月		
二月	一一三	五
三月	一三九	〇
第一期	一二三	五
四月	一三五	〇
五月	一四〇	〇

B11

E-0285

六月

一四〇〇

第二期

一三八〇

一六一

列車運行ハ時間表ノ定メタル通りニ行ハル、モノ少ナク貨物列車ノ本年第一期中時間表通り運轉セラレタル割合ハ二二・六%四月三六%ニシテ五月多少改善セリ

鐵道運轉成績ノ不良ハ鐵道ノミノ責任ニ依ルモノニ非ス工業側ノ鐵道ニ對スル製品供給ノ不足モ與テ力アリ燃料ハ「ドンパス」其他ノ採炭不足ノ爲メ供給甚タ不足シ爲メニ列車ハ屢々所定時間ニ發車スルヲ得ス又遲延ヲ來セリ。鐵道ニ對スル車輛、材木其他設備品ノ供給ハ益々惡ク機關車ノ供給ハ全國ニ於テ第一期ニハ其期ノ豫定ノ二九・六%貨車ハ一五%客車ハ三一%ノ實行アリタルノミナリ

四月ハ多少改善シタルモ大延築ノ方ハ「プラン」ノ六五%ニ過キス工業ノ成績ニ比シ更ニ不良ナリ

本年初五ヶ月間ニ供給率ハ機關車ハ五五・二%貨車ハ三三・五%客車ハ六八・六%「レートル」ハ四二%ナリト

鐵道運輸状態ノ改善セルハ前述ノ當局ノ採リタル對策ニ依ルナルモ又一面季節的關係モアリ積出ニ對スル豫定不實行ノ率ハ第二期ニ於テハ第一期ト反對ニ鐵道側ノ責任ニ依ル分減少シ荷主側ノ責任ニ屬スル貨物積出不能ノ割合ハ三月七五%四月八七%トナレリ
鐵道運輸ハ右ノ如ク三月ノ最悪期ヨリ漸次改善セラレツ、アルカ第三期及第四期ハ穀物ノ出廻り時期ナルト工業製品モ此期ニ増加スルヲ以テ運輸計畫ハ左ノ通り豫定セリ

B11

B11

E-0285

	第三期	第四期
貨物	八八一七	九四八四
	十億噸	十億噸
一晝夜平均積出貨車	六二八	六五一六
	千車	千車
對前年同期	一三五%	一四二%
貨車平均走行里數	一一五	一一五
	千	千
貨物列車機關車	一六七八	一六五
走行里數		

鐵道ニ對スル投資額モ第三期ニハ増加シ年額ノ三五七%ニ當ル八億一千九百五十萬留ヲ本期ニ支出スヘク事業トシテハ復線ノ建築、線路勾配ノ緩和等ノ保線事業ハ年豫定ノ九割停車場工事ニハ七割一分ヲ實行セントスト

八 財政

本年ノ財政計畫三百十九億留ノ中國民經濟社會化部門ノ利益及資本銷却等ノ收入ノ部ハ百三十四億留ナルカ其中工業ノ原價低下率一〇%其額十八億留、交通運輸費ノ低下九%其額約四億五千萬留、建築費ノ低下一二%其額八億留、「コオベラチーフ」ノ商品回轉日數ヲ九日間短縮シテ三億留ヲ得ントスル計畫ナル處本年前半期工業ノ成績ハ前ニ記セル通り原價ノ低下ハ各種工業ニ亘テ殆ント出來ス鐵道輸送ハ七八割ノ成績ニテ運賃收入モ豫定ニ達セス建築費ノ低下、商品ノ回轉期間短縮モ殆ント實現セス又各企業ノ獨立會計ニ關スル制度改正モ未ク充分

E-0285

普及シ居ラサルヲ以テ財制計畫ノ遂行ハ多大ノ困難ヲ感シ居ル次第ナ
リ
租稅收入ハ年額百十二億留ナルカ之モ工業ノ出來高ニ左右セラル、モ
ノ多キヲ以テ相當ノ影響ヲ受ヘシ
次ニ第三ノ主要收入項目タル公債貯金貸下金回收其他人民ノ納入金々
ル所謂民間資金ノ動員ニ依ル金額合計六十億留ニ付テハ其性質カ人民
ノ善意ニ係ハルモノ七割ヲ占メ居ルヲ以テ人民ノ狀態如何ニ依リ計畫
ノ遂行ノ成否ヲ決スヘク國家財政上頗ル重要ナルモノナルカ從來ノ成
績ハ一般ニ都市ハ黨部及労働組合等ノ盡力ニ依リ相當成績ヲ擧ケ居ル
モ村落ハ常ニ不良ナリ
本年第一期ノ實績ハ豫定額十五億五千萬留ニ對シ實收入一月二億四千

BII

二百萬留、二月三億八千萬留、三月四億三千二百萬留計十億五千四百
萬留ニシテ豫定ノ六八%ニ當レリ四月ハ豫定ノ五億一千六百萬留ニ對
シ六一、三%ノ實行アリタリト
第二期ノ民間資金ノ動員額中公債及貯金ハ其約五割六分ヲ占ムル處四
月ノ成績ハ公債ハ其月ノ豫定ノ四六%、貯金ハ三五%ヲ收納セルノミ
「ウクライナ」ニ付テ見ルニ此民間資金動員ノ成績ハ第一期七〇、三%
第二期ハ六月二十五日迄ニ於テ約七〇%ヲ實行シ得タルノミ
但シ「オデツサ」ハ本年前半年ニ三千五百二十六萬留即チ豫定ノ一〇
一八%ヲ動員セリ
今般發行セラレタル公債「五年計畫決定的第三年公債」ハ發行額十六
億留ノ中労働者、勤務者及都市住民ニ對スル募集額十二億留ノ中應募

BII

E-0285

額聯邦財務部ノ公表ニ依レハ締切ノ六月末現在十億三千五百萬留即チ統制數字ノ八六三%ニ當リ地方ニ依リテハ「ウクライナ」ノ九六八%ヲ第一トナス

右公債應募額ニ付キ「ウクライナ」ハ六月末迄ニ二億二千五十九萬留中部市ハ九七%二億二千七百十一萬留ニシテ重ナルモノ左ノ如シ

對「ブラン」%

「ハリコフ」 三四 百萬留 一〇九%

「オデツサ」 一五八 百萬留 一〇一〇%

「キエフ」 九六八%

「ドネエブルベトロフカ」 八三六%

公債ノ申込ハ締切リ後モ繼續スルニ依リ大體豫定ニ達スル見込ナリ

B11

新公債ノ本年度拂込額ハ八億五千萬留ノ豫定ニテ第一回拂込ハ八月中旬ナリ

昨年發行セラレタル「五年計畫」四年ニ「公債」ハ發行額十二億留ノ處財務部公表ニ依レハ五月二十一日迄ノ應募高十億四百四十萬留ニシテ内都市七億六千九百萬留、村落二億七千五百萬留ナリ

(終)

B11

E-0285

外務省 第一八三七號

昭和六年七月十八日

北海道廳長官池田秀雄

昭和六年七月廿日 接受

外務省 第一八三七號

内務大臣 安達謙藏 殿
外務大臣 幣原喜重郎 殿
外務省 課所在及福井愛知福岡山口
各府縣知事 殿

露國船長 齋セル浦塩地方 經濟事情
一 露スル件

ソヴエト聯邦 經濟事情「エリワ」に 露、管下 出 入

(分類 152.0.6)

出 入 露 船 長 齋セル浦塩地方 經濟事情

長 露 聯邦 人「ヤ、エル、スプリングス」に 齋セル

ル 現在 露 船 長 齋セル浦塩地方 經濟事情 一 露、管下 出 入

右 及 申 通 報 〇

記

ソヴエト 聯邦 之 義 兵 如 露 聯邦 中 央 表 及 露
露 地 方 各 府 縣 之 經 濟 狀 況 一 極 東 地 方 各
府 縣 之 經 濟 狀 況 一 極 東 地 方 各
府 縣 之 經 濟 狀 況 一 極 東 地 方 各
府 縣 之 經 濟 狀 況 一 極 東 地 方 各

E-0285

認メサルモ浦塩別荘シ中心トスル極東地方ノ
疲弊衰頽ノ實ニ想像以外ナルモノアリ、勞
働者ハ空腹シ滿タスニ充分ナル食糧シ強
セラレズ又粗服ト虽モ之シ纏フニ制限ヲ
實ニ怠惰ナル生活シ爲シ刺ハ經濟云々等
許思ノ實情ナリトシテ過大ナル勞働シ強
制セララルモ人民ノ極度ノ營養不良ノ論ヲ
衰弱長シク一日四時間ノ就勞サハ不能ヲ
尙奇奴隷ト違ブトコロナキ状態ニシテ隨テ

此ノ如キニ企ツル者近時(新)ク多キナルニ
由ク稅務増徴ノ作業等予言日數ノ二倍シ
過タルモ爲之ヲセザルノ實狀ニテ爲ニ外
惟期日ノ遅延シ来スルカ如キ寧ロ通例ノ不
屬シ又食糧ノ欠乏ニ遠ニ保身ノ任ニ在
ルコトペ、ウレニ遠ニ具數郷音シ及ボシ彼等
ノ活動ハソガイエト政府樹立初期、如キ
意氣意々長ク強慢ナル嫌ヒテ成績更
ニ譽ラサルガ如シモレドモ政府ハ又々予

E-0285

計画シ以テ整備、確立ク期セントスルニ叙
上ノ思案ニ依ルテ得ストシ極力宣傳激
励ヲ行ヒ対外的政策トシテ自小人欲ラシ
テ諸少少ノ程ケル知樂ナ状況ヲ感知セシ
メザル、方策、下ニ示サシ制限シ又増多ハ
地方漁場、輸送スルヲ労働者ノ便業セ
ル船程、一の及的運送ヲ極ク避ケ海陸野
徑ヲ選取ルニ直シスル方途ヲ満シルハ得
ス運船港或ハ小樽港等ニ依リテ修至スル
港ナル場合、便業者ハ勿論船員ト虽モ上
陸ク厳禁シテ居ル之レトテ、生垣状況ト懸
極ナリナキ現在露子ノ生垣状況トノ比較対照
セラルルヲ防止スルヲ要シ外ナラス云々

3

字通あり
文附あり

文書課長 栗原

公 信 案

別紙

(原議用紙甲) 3

文書課發送 昭和六年八月拾日發送済

主 管 歐米局長 任第一課長 (起草昭和六年八月廿日)

款一普通 台 昭 和 昭和六年八月拾日

附 屬 書 通

人名 田島高工次良

發 信 人名 永井次良

件名 ソウエト聯邦経済状況
ニ関スル件

送 込 名 田島高工次良
永井次良

本件ニ關シ今般在「オデッサ」田中領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付御參考ノ爲右茲ニ送付ス

公 信 案 (昭和六年七月七日附在「オデッサ」領事館來信 第五五號並附屬書寫) 外 務 省

E1,2,0,6

領事局
情報

E1,2,0,1-R1

歐米局長
公第七一號

昭和六年八月十一日

第一課長

在オデッサ

領事 田中 文

田中 文
領事

外務大臣男爵 原 喜 重 郎 殿

「ソウエト」聯邦經濟事情送付ノ件

七月中「ソウエト」聯邦經濟事情ニ關スル調査別紙ノ進致ニ報告申進ス

昭和六年九月壹日 接受

E-0285

正

「ソウエト」聯邦經濟事情

(七月)

在オデツサ

日本領事館

「ソウエト」聯邦經濟事情

目次

一 「スタリン」ノ工業缺陷對策
ニ 對策ノ實施振

(一) 勞働力
農民ノ出稼
機械化

(二) 勞銀
勞働者ノ移動
勞銀率

E-0285

勞銀ノ出來高制
 住宅及日常生活必需品ノ供給
 (三) 労働組織
 (四) 技術家ノ優待
 (五) 管理及指導ノ新方式
 企業聯合ノ單純化
 個人管理主義
 三 新築工場ノ竣工
 四 「ドンパス」炭坑事業不振ノ對策
 五 七月中ノ生産計畫實行振
 六 農業上ノ問題

BII

(一) 「ユルホズ」
 (二) 收穫
 (三) 穀物買付
 七 公債應募狀況
 (終)

BII

E-0285

一 「スタリ」ノ工業缺陷ノ對策

本年上半期ノ工業生産額ハ前年同期ニ比シ相當ノ増加ヲナセルモ本年
同期ノ豫定「ブラン」ヲ遂行シタルモノハ稀ニ工場中ニハ有ルモ部門
又ハ企業トシテハ一モナシ此ノ工業生産上ノ缺陷ノ原因ハ第一期ニハ
主トシテ鐵道運輸ノ不良ニ在リトセラレタルカ第二期ニ於テハ鐵道ハ
幾分改良セラレ廣義ノ勞働及生産組織ノ不備ニシテ勞力不足シ能率舉
ラス勞銀ハ一方熟練程度及仕事ノ難易ノ如何ヲ省ミス均一ニ近キモノ
アリ他方同種ノ企業ニ於テ同一等級ノ勞働者カ地方及工場ヲ異ニスル

B11

爲非常ノ開キアリ從テ勞働者ハ勞銀及待遇ノ好キ處ヲ求メテ轉々シ工
場内ニ於ケル機械及裝備使用ニ於テ責任者無ク其破損甚シク又企業經
營管理ノ當局者モ責任ヲ回避シ指導ヲ怠リ「デレクトル」ハ自己ノ權
能ヲ以テ其ノ職ヲ盡サス政府ノ方針及指令ニ反シ合議制ニ依リ又専門
家ニ對スル態度公平ナラス之ヲ利用スルコト少キ等ニ歸スルモノトセ
ラレ「スタリ」ハ六月二十三日經濟機關代表者協議會ニ於テ右ノ原
因ト之ニ對スル對策ニ對シテ實際的理論的方面ヲ演說シタリ
右ノ演說ハ「ソウエト」ノ産業政策上一轉期ヲ畫スルモノト思ハル、
カ其要項左ノ如シ

二 勞働力

從來ハ村落ノ狀態不良ノ爲農村男子ノ職ヲ求メテ都市ニ赴ク者多カ

B11

E-0285

リシカ最近農業機械其他ノ需要ニ對スル供給増加シ農民モ人間ラシク生活シ得ルユ至リタルヲ以テ工場労働者ノ雇入レ方法モ一變スルニ至レリ今後ハ右ノ如キ農村男子ノ自然ニ來集スルヲ待ツテ雇備スルノ方法ヲ止メ工業労働者ハ「コルホズ」及其組合員トノ契約ニ依リ組織的ニ之ヲ募集スル政策ニ移ルヲ必要トスル

第三ハ林業、建築、鑛業等ニ於テ最モ困難ナル労働ハ之ヲ機械化スルヲ要ス

三 勞銀

今日各工場ニ於テ所謂「テクチエスチ (overpayment)」ト稱スル労働者ノ移動非常ニ甚シク半年又ハ一期ニ全労働者ノ三、四割ニ達シ其ノ傾向ハ益々増長スル状態ニ在ル處從前工業ノ復興時代ニ於テハ之

ヲ忍フコトヲ得タルモ改造時代ノ技術複雑トナリ企業ノ範圍擴大セル今日ニ於テハ生産ヲ阻害シ企業ヲ崩壊スルモノナリ

其ノ原因ハ勞銀ノ制度組織不當ニシテ左傾派ノ勞銀平衡主義ニ因ルモノナルヲ以テ勞銀ハ「マルクス」「レーニン」ノ主義ニ依リ労働ノ難易及熟練程度ニ從テ之ヲ定メ尙各企業各部及各重ナル機械ニハ一定數ノ労働者ヲ多少トモ繼續セル期間受持トシテ常置シ其職務及機械ニ對シ責任ヲ負ハシムルヲ要ス

次ニ労働者ノ住宅及日常生活必需品ノ供給ヲ満足セシメ其状態ヲ改善セシムルヲ要ス

四 労働組織

現時作業上ニ秩序ノ連絡ナク品質及能率ノ向上無ク工作機械器具ニ

對シ無責任ナルハ墮所ニ之^有ルカ其依テ來ル處ハ無休作業制度ニシテ
ヲ熟練及能力成績ノ如何ヲ考慮セスシテ交代制度ヲ作製シ無準備ニ
急速ニ之ヲ施行セルカ爲ナリ斯ル狀態ヲ改正スル方法ハ無休作業ノ
施行條件ヲ鐵道ノ如クニシ各労働者ヲシテ無責任ニ陥ラシメサル様
ニスルカ若シ右ノ如キ施行ヲナスニ便ナラサルモノニ在テハ紙上ノ
無休制度ヲ放棄シテ一時六日作業制度一週七日制ニ移リ然ル後實^際
ノ無休制ニ復スルコトニスルモ餘儀ナカラシ

四、労働階級ノ生産技術家智識階級創造問題

現今工業ノ中心ハ從來ノ如ク「ウクライナ」「モスクワ」「レニン
グラド」ニ止マラス「ウラル」―「クザバス」「カザクスタン」―
トルケスタン」ニモ増加シ技術家及工場管理者ヲ要スルコト從來ノ

四、五倍ニナリタル處新ニ教育セラレ高等専門學校ヲ卒業スル者ノ
ミニテハ不足ナリ之ヲ以テ生産ノ「テンポ」及範圍ヲ向上セシムル
爲生産ニ於ケル労働階級ノ政策ヲ解シ其利益ヲ主張シ得ル指揮者及
技術家ヲ企業ノ實際従業員、熟練労働者、工場鑛山ノ教養アルモノ
社會主義的競争ノ發起者「ウデルニキ」ノ組織者、能率増進ノ鼓吹
者其他ノ組織者等ヲ一團トシテ労働階級固有ノ生産技術「インテリ
ゲンチヤ」ヲ作ラントス
右「インテリゲンチヤ」ハ必スシモ黨員タルコトヲ必要トセサルナ
リ
五、舊有産技術家ノ方向轉換ノ現象

一、二年前迄流行的ニ「*Spedunmillomda*」(破壞行動)ヲ行ヒタル

舊技術家「インテリゲンチヤ」ハ其積極的ナル者ニ對シテハ之ヲ粉
 碎シ中立的ナ者ハ切崩シ忠實ナル者ハ誘引シルノ「ソウエト」政權
 ノ政策ハ奏効シ且ツ穀物不足問題ハ解決セラレ多量ノ外國輸出ヲ見
 「コルホズ」及「ソフホズ」ノ建設ニ成功シタルニ依リ其牙城ハ陷
 落シ又彼等カ待望シツ、アリレ外國ノ「インターベンション」ハ今
 ヤ砂上ノ樓閣トナリ其勢力非常ニ微力トナレリ而シテ其「Pop & Dunbar
 Monthly」ハ吾邦ニ階級未タ存シ資本主義國ノ包圍カ存續スル限りハ存
 在スヘキモ其數ハ非常ニ減少セリ
 斯ル形勢ナルニ依リ舊派ノ技術家ニ對スル態度モ又之ヲ變更シ敢然
 トシテ之等ヲ作業ニ吸引シ又之ヲ極力優待スルヲ要ス
 六 企業ノ獨立會計

B11

各企業經理ノ法不良ニシテ原價ノ低下ヲ實現セサルノミナラス反テ
 向上ヲ來シ工業利潤ノ蓄積ナク斯テハ工業ノ發展ハ期待スヘカラサ
 ルニ付各企業ノ獨立會計制度ヲ實施充實シ工業内部ノ利潤蓄積ヲ高
 メルヲ要ス
 七 管理及指導ノ新方針
 (一) 指導者ハ紙上ノ指導ヲ棄テ、實濟且具體的ニ事ニ當ルコト
 (二) 指導上ノ便宜ノ爲ニ企業ノ聯合ヲ分轄シテ單純化シ聯合機關ヲ
 工場ニ近接セシムルコト
 (三) 企業管理ノ合議制ヲ改メ個人管理トスルコト
 右「スターリン」ノ方針ハ七月之日ノ共產黨監察部員會議ニ於テ「ア
 ンドレエフ」カ之ヲ敷衍シ具體的ニ之ヲ説明シ尙各新聞及機關雜誌ハ

B11

全部又ハ一部分ニ付テ論評シ「スターリン」言ヘル我生産計畫ハ絶對ニ現實ニシテ之ヲ實現シ得ヘク又實現セサルヘカラスト宣傳シツ、ア

三 對策ノ實施振

(一) 勞働力

農民ノ出稼

工業勞働力ノ不足ハ「スターリン」^三ハ之ヲ農民ノ出稼人ニ依テ補給シ「
コルホズ」トノ契約ニ依リ組織的ニ之ヲ募集スルモノナル處農村ヨリ
工業勞働者募集豫定ハ二百六十六萬人ヲ募集スル案ニテ就中第三期ニ

B11

ハ二百五十萬人ヲ要スル由ナルカ從來「コルホズ」カ供給セル勞働者
ハ極メテ少數ニシテ一例ヲ舉クレハ「ウオルガ」中流地方ニ於テ上半
期中泥炭採取ノ爲ニ萬人ヲ募集セルモ應募者ハ二千人ニシテ高架索ニ
於テハ四萬人ノ出稼人ヲ得ル「ブラン」ニ對シ實際ハ五千人ヲ得タル
ノミナリト

農村ニ於ケル勞力ハ從前餘リアリ「コルホズ」制ニ依リ之カ或ル程度
迄利用スルコト、ナリタルモ一九三〇年「コルホズ」「インスチチュ
ト」ノ調査ニ依ル同年春夏秋ノ農事期ニ於テ利用セル勞力ノ割合ハ現
有勞力ノ四三二%ナリシト云フ本年ニ於テハ農業機械モ多クナリタル
ヲ以テ餘剩勞力ハ更ニ増加スヘク其餘剩ノ有ルコトハ疑フヘカラス
然シ今日迄ノ實績ヲ見レハ右出稼勞働者ハ組織的ニ募集セルモノモ居

B11

E-0285

付カス本年上半期ニ於テ「ドンパス」ハ五萬人ヲ募集セルカ四萬五千
 人ノ退去ヲ見「ゼルジンスキイ」工場建築ニ對シ組織的ニ二百三十人
 ノ出稼人ヲ募集シタルカ其中三百人ハ歸村シタリト云フ
 「スターリン」演説ノ主旨ニ依リ政府ハ農民ノ出稼労働者吸引ノ爲メ六
 月三十日付「ヂクレット」ヲ以テ國營工業（木材伐採、徒流、泥炭採
 掘漁業等ヲ含ム）交通運輸、「ソフホズ」及國營「コオベラチーフ」
 、建築等ニ従事スル出稼農民ニ對スル特典其組織的募集等ヲ決定セリ
 一 「コルホズニキ」出稼人ハ左ノ特典ヲ與ヘラル
 一 「コルホズ」ノ公共基金ノ爲メノ歩割ヲ全免ス
 一 「コルホズ」ノ收入分配ニ與リ出稼ヨリ歸村スルトキハ第一次
 ニ「コルホズ」ノ仕事ヲ與フ

一 收穫物分配ニ付他ノ善意ヲ以テ働キタル「コルホズ」會員ト同
 様ノ数量ヲ一定價格ニテ供與ス
 二 出稼人ノ残留家族ハ一般規則ニ依リ「コルホズ」ノ仕事ニ參加
 シ保健及不足物品供給上他ト同様ノ特典ヲ有シ入學及修業ノ優
 先權ヲ有ス
 三 其社會化セルモノ以外ノ經濟出稼收入ニ對スル農業稅ヲ免除ス
 四 雇入ヲナシタル經濟機關ハ食料及住宅ヲ供與シ往復ノ船車料實
 費旅中日當一日二留五十哥^{支後}ヲ課スヘシ
 五 期限滿了前ニ退去セル者ハ右ノ特典ヲ喪失ス
 六 出稼労働者供給又ハ募集援助ノ契約ヲナス「コルホズ」奨勵法ト
 シテ

E-0285

- (一) 經濟機關ハ其雇入契約ヲナセル人数ニ應シテ「コルホズ」ノ生産改良資料ヲ給與ス
- (二) 出稼人ヲ著シク出シタル「コルホズ」ニ對シテハ優先的ニ農業機械ヲ供給シ文化公益機關ヲ建設ス
- 三 「コルホズ」ニ加入セル個人農家ノ出稼人ニ對シテハ出稼收入ニ對スル農業稅ヲ半減シ旅費、住宅、食料給與ハ「コルホズ」會員ト同様トス
- 四 出稼人募集ニ關スル組織的方策
 - (一) 「コルホズ」ノ生産計畫立案ノ際坑夫、大工、指物職、石工等ノ専門ノ職ヲ有スル者ハ工業ニ出稼シ得ル様別ニ調査シ置クト
 - (二) 「コルホズ」管理部カ出稼ノ出稼ノ希望ヲ有スル者ヲ差留タル

B11

トキハ應酬セラル

右「ダタレット」ニ基キ「コルホズ、ツエントル」本部ハ七月九日付ヲ以テ地方當局ニ對スル訓令タルヘキ決定ヲナシシ就中出稼人ノ出稼收入ニ對スル課金ハ七月一日ヨリ徵收ヲ禁シタリ

機 械 化

勞力不足ノ對策ノ二ハ各種工業ノ困難難ナル労働ヲ機械化セントスルニアリ此機械化ノ政策方針ハ從來既ニ決定シ居ルヲ以テ今後更ニ之ヲ擴張スル意味ナルカ從來ハ機械化ノ程度ハ過大ナル生産計畫ノ「アランボ」ニ伴ハザルモノアリ個々ノ機械ハ相當ニ有リ殊ニ統計ニ現レタル處ハ各々ノ機械ノ數量ヲ示スモノナルヲ以テ寧ろ意外ニ多數ニシテ又

B11

E-0285

其能率モ前年ヨリハ増加セルモ必要ノ部分品附屬品不足シ或ハ國製品ノ品質粗悪ニシテ破損シ易ク機械ノ運轉シテ其能力ヲ發揮シ得サルモノ多シ機械化ヲ最モ必要トセル「ドンパス」炭坑ニ付テ其例ヲ見ルニ本年中機械類採炭高ハ八〇%ノ豫定ナル處上半期ノ實績ハ約五六%ニシテ七月モ豫定ノ六三・二%ニシテ採炭高ノ比重ハ昨年ノ三八・九%ニ對シ使用セルモノ少ク本年第二期ニ於ケル使用セルモノ、率ハ重採炭機

六八・九%輕採炭機四〇%ナリ

機械ノ能率ハ第二期^中採炭機採炭月額ハ二千四百噸ニシテ前年ニ比シ四三・九%輕採炭機ハ三三・七%ヲ増加シ「プログラム」ニ對シテハ重採炭機八九・三%輕採炭機九一・七%ナリ之ニ依テ見レハ「ドンパス」ノ機械採炭ノ不足ハ(一)機械力不足シ(二)現有機械中三割乃至六割ハ使用

B11

ニ耐ハサルモノニシテ(三)各機ノ能率ハ約一割位缺陷アルノミナリ機械ノ不足ニ付テハ本年上半年期同炭坑ノ注文ニ依ル重採炭機ハ一四・一%輕採炭機ハ八一・%ヲ供給シタルノミ電機類ハ品ニ依リ同炭坑ハ上半期中Q六乃至五九%甲鐵索ハ二二・二%ノ供給ヲ受ケタルノミナリト鐵道ノ例ヲ見ルニ鐵道荷役ノ機械化ニ關シ一九三〇年支出額三百萬留ノ中機械ノ受渡ハ七十萬留アリ一九三一年本項豫算三千萬留ナルカ右注文ニ依ル機械力完全ニ調達セラル、トキハ四千七百萬噸ノ荷役ヲナシ三萬二千人即チ全勞働者ノ約一割ヲ減シ約三千萬留ヲ節約シ得ル豫定ナル^ハ六月十日迄ニ鐵道ハ契約高ノ一八%約七十七萬留ノ分ヲ受ケタルノミニシテ而モ附屬品ハ不足シテ使用シ難キモノアリト

B11

E-0285

(二) 勞 銀

勞働者ノ移動

勞働者移動ノ類案ナル例

一、「ウラル」諸炭坑ニ於テハ一月ヨリ五月ニ至ル五ヶ月間ニ新就業者一萬二千人、退去セルモノ一萬一千人ニシテ登簿勞働者數ノ一四六%ニシテ其移動ハ月ヲ追テ益々増加シ五月ニハ新來三千百二十人、退去三千百七十人ニシテ全勞働者ノ二一、一%ニ當ル

「モスクワ」附近諸炭坑ニ於テハ昨年中新來三萬一千人、退去二萬八千人ナリシカ本年第一期ニハ新來六千二百七十人、退去五千二百

B11

八十八人四、五兩月中新來四千四百三十八人、退去五千四百四十四人ナリ

B11

二、建築ニ於テハ「クツネツストロイ」ハ三月ヨリ五月ニ至ル間ニ新來一萬四千七百人、退去七千五百人「チエリヤビンスク」ニ於テハ五
 五月下半期ニ新來一千八百六十人、退去一千六百四人六月上半期中
 ニ一千四百八十五人、退去二千二十七人ニシテ勞働者總數ハ九千八百五十六人ニ減少セリ

三、「ノウオロシイスタ」工場ニテハ四、五兩月中ニ新來二千四百八十五人、退去二千五百四十四人ニシテ五月ハ退去者ハ新來者ヨリ九十九人多シ

四、輕工業ニ於テモ同様ノ現象アリ五月中「モスクワ」市内四紡織工

場ニ於テ續來六百三十九人、退去三百六十九人アリ「モスクワ」地方四紡織工場ニテ新來七百十三人、退去一千五百七人アリ

右ハ當局ニ於テ對策ヲ講ル以前ノ現象ナルカ其後モ尙繼續シ居レリ其移動ノ原因ハ住宅及食料ノ支給不良ニシテ勞銀其當ヲ得ス物資缺乏甚シク爲メニ勞働者ハ待遇ノ幾分ニテモ好キ處ヲ求メテ轉々スル爲メナリ

勞銀及勞働ノ組織ハ非常ニ重大ナル問題ナルカ從來職業組合ニ任セテ企業家タル經濟機關^例ハ之ニ關係セザリシ處當局者ノ言ニ依ルニ勞銀組織ニハ「トロツキイ」派ノ勤勞民ノ需要即個人的生存ノ條件ニ於テハ平衡主義ニ依ル^ト「メンシエビキ」的「テーゼ」カ採用セラレ右傾派ノ指導セル職業組合本部モ之ヲ放任シ居リ最近右傾派ノ掃蕩セ

B11

ラレタル後モ勞銀組織ハ變更セラレス平衡主義ハ依然ト存シ例ヘハ金屬職工ノ勞銀率ハ上級ニ至ルニ從ヒ勞銀增加率ハ減シ一級ヨリ三級迄ハ各級二〇・八%ヲ増加セルニ四級ハ三級ニ比シ一七・二%、各下級ニ比シ五級ハ一四・七%六級ハ一三・八%ヲ増加シ居リ其他モ大體同様ナリ而シテ勞働ノ難易ニ依ル差モ少ク本年上半年ノ平均月收ハ印刷工ハ九三・一留職職工八四・五留製鐵工八三・八%ニ當リ之ハ重工業ヲ主トスル國策ヨリ見ルモ不當ナリトセラレ

右勞銀賃率ノ改正ニ付テハ未タ具體案ナク幾何程度ニ此平衡主義ヲ捨テ技術及仕事ノ難易ニ依リ差等ヲ設クルヤハ其成案ヲ待ツテ見ルヨリ外ナシ

B11

勞銀ノ出來高制

從來ノ勞銀及勞働組織ニ依ルトキハ勞働者ハ一日七時間ノ勞働時間ニ對シ正味四、五時間位シカ働カサリシヲ以テ能率増進ノ方策トシテ一定ノ定額勞銀ニ出來高ニ依リ割増ヲ與フル出來高制度ヲ施行スルコト、シ最高經濟會議ハ其所轄工業ノ八割迄此ノ制度ヲ及ホスヘントノ指令ヲ發シタルカ現在ニテハ五割程度ニシテ而モ最近成績思ハシカラス其施行ノ範圍モ一割方減少セル狀態ナリ此制度ハ主トシテ組（ブリガド）組織ニテ施行セル爲其組ノ内部ニハ一般工業ニ於ケル勞銀組織ノ缺點タル所謂平衡主義行ハレ同様ノ弊害ニ陥_レタリ之ヲ_レ救スル爲個人的ニ其出來高ニ依ルコト、シタルカ之ハ好成績ヲ舉ケ「イワノフスカ

B11

ヤ、オブラスチ」ニ在ル「コムインスカヤ」泥炭採掘場ニテハ五、六

兩月間ニ採取豫定年額ノ一四五%ヲ採取セルニ本制度施行後七月二十五日迄ニ年豫定額ノ二七五%ヲ採取シタリト

最高經濟會議ハ七月三十一日付省令ヲ以テ建築工事ニ「プレミヤム」付運増出來高制ヲ定メタリ同制ハ各種勞働者ノ仕事ノ一定率以外ニ出來タル仕事ニ對シ其出來高程度ヲ十分ノ一宛十等ニ分チ各業ニ遞增的「ユエフィシエント」ヲ定メ之ニ依リ算出セル加給ヲ與フルモノナリ例ヘハ壁煉瓦積ノ一日定量ハ煉瓦九〇〇個ナルカ若シ、三〇〇個ヲ積ミタル場合ニ定量外出來高ハ四四%ナルニ依リ五等ノ「コム_エフィシエント」ニ六五%ヲ定量外出來高四〇〇個分ニ乘シテ得タル金額ヲ加給ス即チ定量九〇〇個ニ對スル勞銀評價額四留十哥ニ其割合ニ依ル四〇〇

B11

E-0285

個分ノ勞銀ニテ六五ヲ乘シタル三留一哥ヲ加ヘタルモノ合計七留十一
哥トナル

出来高ハ各個人ニ就キ算シ組ニテ施行スルモノハ勞銀及「プレミヤム
」ハ勞働セル各人ノ日數及其等級ニ應シテ分配スルコト、ス

住宅及日常生活必需品ノ供給

勞働者ノ住宅ハ一般ニ戰前ヨリ改善セラレタルモ都市ニ於テハ平衡主
義アリ高級者ハ好カラサル状態ニ在リ且ツ勞働者ノ激増ニ對シ住宅建
築之ニ件ハス極度ニ不足シ住宅建築ハ年々遞増セサルヘカラサルモ新
築家屋率ハ却テ減少セツ、アリ「オデツサ」市ノ如キ新築住宅ノ面積
ハ一九二八年ニ二二、七一七方米一九二九年一三、四三一一方米一九三〇年

一〇八一一方米ニシテ現在ハ一人當六六方米ナリ

住宅ノ不足其狀態ノ不良ハ賃銀ノ低率及生活必需品ノ不足ト共ニ勞働
者移動ノ主タル原因トセラレ「ドンパス」炭坑ノ如キ昨夏採炭不成續
ノ對策トシテ住宅改善ノ緊要事タルヲ指摘セラレタルモ同問題ハ今ニ
解決セラレス

六月以來特ニ高調セラレタル市政ノ改善ハ市民ノ住宅保健文化施設ノ
増實ニ歸スル處此邦ニ於テ市民ハ勞働者及勤務者ヲ主トスルモノナル
ヲ以テ市政問題ハ本項勞働者ノ要求ニ應セン爲ナルコト、ナル此具體
的方策トシテ「ウタライナ」ニテハ中心政府ニ市職權ナル獨立ノ人民
委員部ヲ創設シ住宅建築ニ大ニ力ヲ注クヘタ「オデツサ」市ノ第二次
五ヶ年計畫ニモ特ニ此ノ方面ニ意ヲ注ク方針ナリト

日常生活必需品ハ衣食料品トモ缺乏シ其生産物ハ外貨吸收策ノ爲メニ
 外國ニ輸出セラレ更ニ不足シツ、アリ國民經濟ノ生産計畫ノ斷層モ詮
 スル處ハ^乳是實ノ給養全然不良ナルカ爲ナリ營養不足ノ結果如何ニ精神
 的ニ勞働ニ努メントスルモ體力之ニ伴ハサル状態エシテ之ハ各種勞働
 者ノ口ヨリ常ニ之ヲ聞ク處ナリ一日六百瓦ノ黒パン、砂糖一ヶ月ニ一
 庭茶一ヶ月ニ百瓦肉一週五百瓦ハ勞働者一人ノ定量ニシテ現下ノ状態
 ニ於テ與ヘラル、大部分ノ食料ナリ此ノ如キ食料ヲ以テ營養ヲ得ル勞
 働者カ幾ニ角意業的ナルニセヨ七時間ノ勞働ヲナシ得ルハ寧ロ驚異ト
 セサルヘカラス
 重ナル工場鐵道、水運従業員及軍部ニハ其部門限リノ配給所アリテ定
 量ノ食料品ヲ配給シ居ルモ其他ノ勞働者及勤務者ハ「コオペラチーフ

一ヨリ供給ヲ受タルコト、ナリ居レルカ黒パン、砂糖ノ外殆ント何物
 モ受タル能ハス依テ其不足ハ市場ニ於テ方外ノ價格ヲ以テ販賣スル個
 人商人ヨリ購買セサルヘカラス而モ其價格ハ社會的政策ノ完成ト共ニ
 益々暴騰シツ、アリテ勞銀ノ増加アルモ生命ノ存續ヲ圖ルニ愈々困難
 ヲ來セリ
 今「オヂツサ」ニ於ケル物價ノ例ヲ示セハ左ノ如シ
 單位 一九三〇年七月 一九三一年七月 備考
 黒パン 三百瓦 五哥 五哥 コオペラチーフ
 砂糖 一庭 六〇哥 六〇哥 コオペラチーフ
 二、五〇哥 三、五〇哥 バイトルダ
 五〇〇哥 コオペラチーフ

E-0285

鶏卵	一〇個	七〇〇	哥	一五〇〇	哥	市場
	同上	一五〇	哥	三〇〇	哥	市場
バター	一フント			二五〇	哥	コオベラチーフ
	同上	四〇〇	哥	九〇〇	哥	市場
馬蹄糖	同上	三〇	哥	七五	哥	同上
	同上	一〇	哥	五〇	哥	同上

備考

右「コオベラチーフ」ハ特殊配給所ノ價格ニシテ昨年七月頃ノ價格ナキモノハ同所ニ於テ未ダ取扱ハサルモノ或ハ市場ニ於テ入手スル方有利ナキモノ

B11

右ニ舉ケタル僅少ノ物品ニ付テ見ルモ多クノ必需品ハ二倍餘ニ騰リ人參ノ如キハ昨夏一「フント」八哥ノモノカ一本二十乃至二十五哥トナレリ蔬菜類ノ暴騰ハ農村社會化政策ニ依リ農家カ「コルホズ」ニ加入シ其結果之カ作付ヲナスモ格別ノ收入トナラストシ耕作セサルト蔬菜栽培ヲナスヘキ新設ノ「ソフホズ」「トラスト」機關カ未ダ其業ニ着カス生産無ク市場出廻品少ナクナリタル結果ニシテ工業中心地ニ送付スル蔬菜類ノ如キ非常ニ少量ニシテ豫定量ニ達セサルカ「ウタライナ」共産黨機關紙カ掲載セル資料ニ依リ「ウタライナ」ヨリ供給セル蔬菜量ノ七月中統計資料ノ集リタル十五日分ニ付テ豫定ト實際トヲ比較スルニ左ノ如シ（單位噸）

仕向地 豫定 実績

B11

E-0285

「ハリコフ」 四三一六 一八八七
「ドンバス」 一八八一七 三六五七
「モスタワ」 三五一五六 七九二一
「キエフ」 二九二八八 八〇七九
「オデッサ」 「ライオン」ニ於テハ十萬噸ノ蔬菜ヲ買付ケ發送スヘキ豫定ニ對シ七月末迄ニ僅ニ二四％ヲ實行セルノミエテ毎日ノ買付高モ最近十日間ニ四十一四十五車ヨリ八一〇車ニ減少シ前途悲觀ノ狀態ナリ、其他ノ物品ニ付テモ昨夏ト比較スルニ非常ニ騰貴シ「ビール」ハ倍額トナリ「ウオトカ」一本三留七十哥ハ八留五十哥トナリ市内電車モ一區十哥ハ七月ヨリ十五哥ニ引上ケラレタリ

社會政策ノ深化並ニ食料問題解決ノ方法トシテ公衆食堂制度ヲ獎勵シ

B11

層ルカ「オデッサ」市ニ於テハ昨年十月一日三萬三千人分ノ晝食ヲ給シ本年七月ニハ九萬五千人分トナリ工場労働者ノ七一％學生ノ全部ハ此ノ方法ニ依リ食事ス「ウクライナ」ニ於テハ本年第三期ノ計畫トシテ「ウクライナ」全部ニ於テハ労働者ノ四三％「ドンバス」ニ於テハ五五％迄ニ此ノ制度ヲ及ホス豫定ナリ

B11

本項労働者人民生活ノ直接需要ヲ充タス爲メ輕工業擴張カ高唱セラレ居ル處本年ノ生産計畫ハ左ノ如シ（一九二六―七年ノ價格ニ依ル單位百萬留）

	一九三〇年	一九三一年	増率%
最高經濟會議所轄工業	六八一六	七九三八	一六四%
供給部所管工業（食品）	三〇一六	四七三七	五七一%

E-0285

計

九八三二

一三六七五

最高經濟會議所轄工業中織物業ノ生産額ハ本年四十四億留ニシテ昨年ノ四十億留ニ對シ一割ノ増加ナルカ現物ノ總高ハ左ノ如シ(百萬米)

一九三〇年

一九三一年

増率

綿布

三、四五四三

三、八三五〇

一五五

毛織物

一二九一

一二五〇

(-) 三三一

麻布

二〇四三

一七五〇

(-) 一四三

絹布

一九五

一五〇

(-) 二五二

綿布ハ一億六千萬人ノ人口ニ割當ツレハ一人當約十七米ナリ

右生産計畫ハ原料ノ關係上改正セラレ(一)綿業ハ原料豫定ヨリ不足ノ爲

メ縮少シ(二)絹業ハ他ノ用途ニ充テタル繭ヲ振替ヘタル爲メ増加シ(三)毛

織業ハ代用品混用率ヲ増シタル爲メ増大シテ左ノ如クセリ

單位

當初

改正

使用棉花

千噸

三九〇

三八〇

絹業

百萬留

一一一

一四三六

毛織業

百萬留

四二〇

五六九

メリヤス

百萬留

四二三

四三〇

第三期ニ於テハ當局ニ方針ニ依リ人民需要ニ應スル爲メ輕工業ノ生産ヲ増加シ紡績用棉花ハ二期ニ比シ一萬二千噸二十萬噸ヲ増加シ三都交代ニテ一七六八〇〇〇噸トナシ前年同期ノ二倍ノ作業ヲナシ綿布ハ七億三千九百萬米前年同期ヨリ六一%ヲ増産シ其供給量ハ九千二百萬米ヲ増加シ「メリヤス」、絹布モ増産シ毛織物モ一般供給量ハ第二期ノ

E-0285

二倍ニ増加スヘント

然シ工場ノ現況ハ大ニ不良ニシテ勞働制度ハ所謂平衡主義アリ勞働時間ハ不合理的ニシテ機械ノ停止割合ハ「プラン」ヲ越スコト第一期ニ三一%五月ニ三・八三%ニシテ生産計畫ハ從業職工カ定員外ニ四千人ノ多數ヲ有セルニ不拘違ニ未遂行ニ終リ製品ノ不合格率ハ二割以上ナリト第三期ノ「プラン」實行ニハ新ニ三萬五千人ノ職工ヲ要ス然ルニ七月中ニハ右ニ對スル何等適切ナル改良ヲ見サリトノコトナリ
當局者ハ原料作物ノ棉花ノ作付ハ二百五十二萬三千「ヘクタール」ニシテ前年ニ比シ六割ヲ増シ亞麻ハ二百三十萬「ヘクタール」ニシテ約三割ヲ増加シ而モ社會化部⁹⁹ノ耕作段別ノ割合ハ棉花ニ付テハ昨年ノ四二%ニ對シ本年ハ七三・一%ニシテ工業原料作物ノ供給ハ保證セラレタリ

B11

ト稱シ居ルモ其政策カ數ニ於テハ成功セリト云ヒ得ルモ綿布ノ人民ニ對スル供給カ急ニ著シク増大スルモノトハ推定シ難ク「ソウエト」政府カ外貨吸收及其他ノ政策ニ依ル方針ヲ改メテ之ヲ内國ノ需要ニ仕向タルニ非サレハ日用生活必需品ハ依然缺乏ナルヘシ

本年製靴ノ豫定ハ八千四百六十萬足ニシテ前年ヨリ二四四%ノ増加ナルカ本年初メ五ヶ月ノ實績ハ三千三百十五萬足ノ豫定ニ對シ二千七百六十萬足即チ八三・三%ナリ

食品製造計畫本年ニ入り當初メ所定ノ統制數字ヲ減少シ一九三〇年ニ比シ三割ノ増加トセルカ本年上半期ノ實績ハ思ハシカラス豫定ノ七二%ニシテ罐詰製造高ハ七千九百八十萬個ニシテ豫定ノ六一・七%ニ當ル第三期ハ原料ノ關係上此種工業ノ生産多キ期間ナルカ第三期二十五

B11

E-0285

僅前年同期ニ比シ一七%ノ増進ノ「プラン」ナリト此「プラン」ノ成否ハ原料作物及^後類ノ收穫如何ニ關ル

日常必需品ノ供給ニ關シテハ六月ノ共產黨本部總會ノ決議ニ基キ「コホベラチーフ」ノ改善^案差當リ其販賣所ノ擴張ヲ必用トセラル、鹿全聯邦ニ涉リ都市工場地ニ九月一日迄ニ三、八七〇ヶ所ノ消費組合ヲ開設スル豫定ニ對シ七月末迄ニ三、四百ヶ所開設セルノミ内「ウクライナ」「ハ」「ドムヌ」「一五〇」「ハリコフ」、「キエフ」、「オデツサ」、「ドホヅルベトロフスタ」各一〇〇合計五〇〇ヶ所ノ豫定ナリ

(三) 労働組織

労働組織ノ改正實行ニ付テハ聯邦労働部長兼無休生産週實施委員長「チホン」ノ「インタービュー」ニ依レハ(一)現時三部交代ニテ作業スル企業ニ在テハ労働者ヲ四組ニ分テ五日中一日休、一日七時間労働ノ原則ハ存續シテ交互ニ不斷ニ作業シ一機械又ハ旋盤ニ專屬ノ労働者各組一人當宛ヲ定メ各自ニ其機械ノ被損ニ對シ責任ヲ負ハシムル制度トスヘク之ハ各企業内部ニ於テ政府ノ許可ヲ待スシテ實行シ得ラルヘク(二)現在一部又ハ三部交代ニテ作業スルモノニ在テハ無休制ハ名ノミニシテ事實毎日機械ノ運轉セサルモノアルヲ以テ之等ハ六日作業ニシテ一日休業スル制度ニ變更スルコト、ス但シ此變更ハ政府ノ許可ヲ要スルモノトス

而シテ右改正ハ既ニ實行セルモノアリ

技術家ノ優待

技術等ノ新教育ヲ受ケタルモノ未ダ少数ニシテ其力モ薄弱ナル處舊派
技術ニ對シテハ其過去ノ階級ノ故ヲ以テ排斥シ然ラサルモ技術家ヲシ
テ會議又ハ報告ノ作製ニ從事セシメ管理ニ當ラシメ生産ニ從ハシメス
現時實際生産ニ活動スルモノハ現有力ノ三、四割ナリトノコトナリ
黨及政府ノ方針カ舊技術ヲモ優待スルニ決シ七月航空技術等ノ罪ヲ釋
シ其功績ヲ認メテ賞金ヲ與ヘタルコトアリカネツケ當地方一製糖工場技術家ハ
業ニ産業黨事件當時ヨリ拘禁セラレ居リシ處先般出獄セルカ當局ハ之
等技術ニ對シ土耳其機斯垣、西伯利へ赴クヘシ然ラサレハ強制的ニ地方

B11

へ追放スヘント脅迫セル由ナリ

技術優遇ノ具體的方策トシテハ八月一日付「デタレット」ニ依リ技術
ハ左ノ諸點ニ付キ工業労働者ト同等ノ待遇ヲ受タルコト、ナレリ

一 其子女ノ入學

二 保養療養所利用

三 一時的労働不能ニ陥リタル^場ハ保險金補助

四 需要品供給

五 住宅ノ割當及其住宅組合

尙(一)現場作業ヨリ管理部へ轉勤ノ際勞銀ヲ引下タルコトヲ禁セラレ(二)
技術ノ所得税ノ課税點ハ月額五百留トシ遞増法ニ依ラシテ其受クル
給與額ノ三五%トセラレタリ

B11

E-0285

(四) 管理及指導ノ新方式

企業聯合ノ單純化

附圖ハ七月下旬左ノ聯合機關ノ分割ヲ決定セリ

機械工業

重機製造聯合 (BOMT) ヲ改メテ採鑛冶金機械製造聯合ト化學機械製造聯合ニ分テ

機關車輛「ディゼル」 (ЛАЗБАЛАНС) 聯合ヲ改メテ「ディゼル」、機關車及車輛製造ノ三聯合ニ分テ

旋盤器具聯合ヲ改メテ旋盤製造及器具製型ニ聯合ニ分テ

B11

B11

農業機械ノ全聯邦聯合ヲ改メテ「ウクライナ」、北高架索、「ウラル」、西伯利及中央ノ四共和國「トラスト」ニ分テ
仰筒「コムプレス」聯合及「コムン」經濟用品聯合ノ二「トラスト」ニ新ニ組織シ

建築材料聯合 (Строительный) ヲ耐火及「セメント」ノ二「トラスト」ニ分テ

夫々工場ノ配屬換ヲナシ尙各「トラスト」間ノ企業配屬換ヲナス權能ヲ最高經濟會議ニ與ヘタリ

個人管理主義

個人管理主義ニ付テ行政經濟各部ニ於テ兩三年ヨリ唱導セラレ政府ニ

E-0285

於テモ之ヲ確立セントスルモ當務者ニ於テ其位置ヲ確保セラレサルヲ以テ當然ノ權限ヲ行使スルニモ悉怖シ敢テ危險ヲ冒スモノナク合議制ニ依リ責任ヲ迴避セントスル狀況ナリ

七月二十九日「ザ、インダストリアリザーチヤ」(最高經濟會議機關紙)所報ニ依レハ石炭ト同様大企業ニシテ成績最モ悪シキ製鐵「トラス」(「スター」本部ハ個人管理主義ニ依リ改造セラレ支配人「ムインコフ」)及副支配人二名ノ任命アリタリト

此制度モ指導者ヲシテ安心シテ專ニ當ラシムル様ニスル方針ナリトノコトナルモ從來ノ如ク當該企業ノ成績不良ナルトキハ直チニ其支配人ノ責任ヲ問ヤ半年又ハ一年足ラヌノ短期間ニ交迭シ又支配人モ多クハ黨及其他ノ緣故ニ依リ任命セラレ實際管理又ハ技術ノ智識技術ニ缺ク

B11

ルモノ多キ現狀ニテハ餘リ大ナル寄與ヲ期待シ難シ

三 新築工場ノ竣工

一九三一年中作業ヲ開始スヘキ新築工場ハ炭坑、「アグレガート」等ハ五百十八個ノ豫定ニシテ其上半期ノ分及七月十五日迄實行ノ分左ノ如シ

	豫定	實行
工場等	二七〇個	一八三
工費	九一九百萬留七〇七	
生産豫定年額	六〇〇百萬留	

B11

E-0285

(其他合理化等ノ工費ヲ合算スレハ上半期中作業ヲ開始セル企業ノ工費ハ十一億留ナルカ昨年一年間ハ十四億五千萬留ナリ)
 右内重ナルモノ左ノ如シ

企業ノ種類	豫定	實行		
單位	工費百萬留	單位	工費百萬留	
發電所	一三	一九九	九	一五三
炭坑(ポンパス)	九	二七九	二	一五七
同上(モスコ)	四	一七	三	一五
同上(東方各所)				四二
冶金(スタリ)	八	二七六	六	一九〇
同上(ワストコスタリ)	六	一四四	六	一四四

コークス化學工業	三	三四〇	三	三四〇
石油	一九	七〇三	一一	五〇〇
色金屬	八	一〇四〇	六	一〇三〇
化學工業	二八	四七〇	一一	二三六
機械	三	一三〇	三	一三〇
旋盤器具	一	三四	一	三四
農業機械	一一	一〇六五	七	一〇〇〇
POMD	二	三四	二	三四
職工道具類	三	五七	三	五七
橋梁	二	三一	二	三一
汽機タービン	一	九六	一	九六

中選機被	五	三六	五	三六
造船(ソユースウエルビ)	五	一五六	二	三五
BAT (Bany)	二	二〇	二	三〇
林業	一五	三三〇	五	一三三
ドンパス水道トラスト	七	一〇五	七	一〇五
建築材料	六	三三二	五	二七四
煉瓦工場	三五	六一六	二九	三八三
新建築材料	二九	三〇	二九	三〇
輕工業	五	一〇〇	一〇	〇八五
製紙	三	二七		
製革	四	三〇	四	三〇

B11

「ツビイテリ」	三	五三		
人造織練	一	一八七	一	一八七
映画	一	一三〇	一	一三〇

B11

四 「ドンパス」炭坑事業不振ノ對策

「ドンパス」炭坑ノ不振ハ既ニ慢性トナリタルカ之カ當面ノ對策トシテ
 又産業振興ニ對スル新方針實施現ノ第一着手トシテ
 産炭本部書記長及最高經濟會議長ハ七月七日付ヲ以テ同炭坑ノ各機關
 ニ對シ炭工業ノ目的ニ關スル指令ヲ發シタリ
 右指令中具體的部分ノ要領左ノ如シ

E-0285

一、労働組織及経済技術指導

現時炭坑各機關ノ注意スヘキ最大問題ハ炭坑内労働ノ組織ヲ完全ニ
スルコトニシテ

- (一) 機械化セル炭坑内ニ於テハ一ヶ月以内ニ管理上及機械使用ニ對
シ個人的責任者ヲ定メルコト
- (二) 大坑内ニ於テハ責任者ヲ定メテ車輛運轉ヲナスコト
- (三) 九月一日迄ニ地下坑夫ノ八五―九〇%及其他ノ労働者ノ七〇%
ニ對シ出來高ニ依ル勞銀制ヲ適用スルコト
- (四) 二ヶ月以内ニ勞銀ノ平衡主義ヲ改メ熟練者ヲ優待スル方法ヲ實
施スルコト
- (五) 勞銀率決定ハ坑長ニ於テ直接指導シ勞銀ニ適スル事務員ヲ養成

スルコト

- (六) 技術家及工長ノ勞銀ヲ機械化實施ノ技術的教育ノ度ニ應シテ定
メ各種職工技術家ノ豫定外採炭高ニ對スル「プレミアム」ヲ定ム
ルコト
- (七) 機械使用上ノ教育ヲ施シ大坑ニハ講習ヲ開始スルコト
- (八) 年末迄ニ大坑ハ獨立會計主義ヲ施行シ坑内ノコトハ其幹部ノ經
費量ニ任ス

二、機械化ノ根據擴張充實

- (一) 一九三二年ニ大坑ノ半分ヲ全部機械化スルノ案ヲ立テ本年中ニ
尙十二坑ノ機械化ヲ實現スルコト
- (二) 其他ノ部分的設備ヲ整ヘルコト

- (三) 附近農業學校卒業生ノ八割ヲ同炭坑ニ使用シ電氣技師及機械技師百人ヲ以テ機械化炭坑ニ就職セシム
- 三 専門家ノ確保及労働者ノ移動及労働者技術家ノ文化生活上ノ改善
- (一) 各機關ハ労働者及技術家ノ文化生活上ノ改善ニ注意努力シ食堂及「コオベラチーフ」ニ順番ヲ確定シ物品ノ適時供給、食料ノ改善、燃料及水ノ配達、家具什器ノ供給ヲ圖ルコト
- (二) 炭坑ト「コルホズ」ト直接契約ニ依リ坑夫ヲ納入スル「コルホズ」ニ對シ經濟上ノ援助ヲ與フルコト、スルコト
- (三) 黨部ハ坑夫募集ノ大衆宣傳ヲナスコト
- (四) 本年ノ住宅建築計畫ヲ遂行スルコト
- (五) 「コオベラチーフ」店百十五ヶ所開設案ヲ速ニ實現スルコト

B11

- (六) 物品供給及給水上ノ計畫ヲ實行スルコト
- 四 建設
- (一) 試掘ヲ行ハス新坑開鑿及建築遅延シ建築費嵩ムニ付本年中十五新坑及十五改造坑ヲ作業シ得ル様ニ工事ヲ獎勵シ次年ニ作業シ得ヘキ新坑及改造坑ノ建築日程ヲ作製スルコト
- (二) 現有餘力利用及採掘擴張ノ案ヲ作製スルコト
- (三) 品質向上ヲ計ルコト
- (四) 發電所ノ竣工期ヲ定メ電氣供給ヲ正確ナラシムルコト
- (五) 炭坑「トラスト」ノ權限ヲ擴張シ獨立性ヲ認メ炭坑ノ改造新築ニ對スル管督權ヲ與フ
- 五 各機關ハ炭坑ノ生産計畫遂行ニ對スル任務

B11

E-0285

住宅建築

前記ノ「ドンバス」炭坑ノ事業改善ノ一タル「ドンバス」労働者ノ住宅建築ニ付テハ實行抄々シカラサルヲ以テ本年三月二十五日、四月三十日及七月五日黨本部ニ於テ夫々決議ヲナセルカ「ドンバス」ニ於ケル本年ノ基本的建築計畫七十四萬方米ニ對シ七月一日現在竣工十五萬二千方米即二割「スタンダード」住宅建築ニ付テハ五十七萬五千方米ノ豫定ニ對シ七月二十日竣工約八%百七十七棟ニシテ使用ニ供セルモノ一家モナシ住宅建築當事者ハ契約締結、設計等ヲ等閑ニ附シ必要ノ材料缺ケ木材ノ如キ煉瓦造家屋用ハ七月二十日現在ニテ三割木造家屋用ハ五割ノ供給アリタリノミナリ

之ヲ以テ實行委員會ハ八月三日付決定ヲ以テ

一、「スタンダード」住宅建築聯合ハ十月一日迄ニ石造家屋二十五萬方米及木造家屋十六萬八千方米分ヲ引渡スコト

二、中央住宅聯合ハ十月一日迄ニ木造「スタンダード」家屋三萬方米ヲ使用ノ爲引渡スコト

等「トラスト」代表ノ誓約ヲ取付ケ其他建築材料用品ノ納入、運輸等ニ付キ夫々手配スヘキ義務ヲ負ハシメ又ハ誓約ヲ取り九月二十八日ニ其結果ヲ聽取スヘキコト、セリ

尙石炭「トラスト」本部ハ七月中旬「モスクワ」及「ハリコフ」ヨリ炭坑所在地「アルテモフスク」ニ移轉ヲ開始セリ

五、七月中ノ生産計畫實行振

一、「ドンパス」ノ採炭

「ドンパス」炭坑ニ於ケル七月中ノ採炭高ハ三、一四三、一一〇噸ニシ
 エシテ六月ノ三、二七三、七〇〇噸ヨリ一三、六〇〇噸ノ減退ニテ豫定
 計畫ノ六五、九%ヲ遂行セルノミニシテ、六二、六七九〇噸ノ不足ナリ
 但シ前年同期ニ比シ四九、三〇〇噸ノ増加ナリ機械堀ニ依採炭高ハ
 三、一四九、二七四噸エシテ「フラン」ノ六三、二%ニシテ前月ノ夫ヨリ
 減少セリ

右ノ原因ハ一部中旬降雨浸水ニ依ルモ從來舉ケラレタル缺點カ正

セラレサル爲ナリ

(二) 製鐵業

「トラスト」「スタリ」ノ成績ハ左ノ如シ(單位千噸)

製造高 對フラン%

月	製造高	對フラン%
四月	三一三、九	七七
五月	三一四、四	七二
六月	三一三、七	
七月	三〇三、六	六八
八月	二八、三	七二

五月 二七三〇 七月 七〇
 六月 二五六一
 七月 二四四一 六月 六二二

右「プラン」乘遂行ノ原因ハ機械ノ破損、労働制度ノ未改良、労働者ニ對スル供給不良等ナリ

(三) 「オデツサ」ノ工業成績

工業全體ノ成績ハ豫定ノ八二七%ニシテ重工業中主タル金屬及機械製造業ハ六九二%（内主タル農具工場ハ四六五%）化學工業四三二%ノ不成績ニシテ食品製造ハ一〇四四%ヲ實行セリ

(四) 輕工業

上半期 七月

對「プラ」 對「プラ」 對前月%
 千米 千米

綿布	對「プラ」%	千米	對「プラ」%	對前月%
毛織物	六五四六	千米	九八八五	一一四二
革製靴	七九八〇	千個	六四七九	一〇三〇
鐵 鋸	六二七	千個	一九九一	七五二

(五) 運輸

鐵道運輸ハ漸次改善セラレタル處七月ヨリ穀物其他農產物ノ出廻時期トナリ秋冬ノ繁盛期ニ入ルヲ以テ黨本部ハ七月十五日右輸送ニ對スル準備ニ關シ指令ヲ發スル所アリ

鐵道輸送實況ニ付テハ七月中旬ヨリ穀物新物ノ出廻激増シ豫定ヲ超シタルモ工業製品ノ出廻少ナク七月平均一晝夜五三〇〇〇車ニシテ

E-0285

前月ニ比シ一晝夜平均一七〇〇車ヲ減シ前年同期ニ比シ一〇〇車ヲ減少セルカ本月ノ豫定「プラン」ノ八〇・三％ナリ
河川運輸ニ付テハ七月二十五日ノ成績左ノ通

輸送量	對「プラン」%	對前年同期%
七月二十五日間 六二〇千噸	△五三・二%	一四三%
航行期間開始以來 一九八〇〇千噸	◎二七・二%	一三九%
備考 △ハ七月ノ「プラン」	◎ハ年「プラン」ニ對スル%	

六 農業上ノ問題

農家ノ「コルホズ」加入運動及春蒔作物ノ擴張督勵ニ次テ七月ニ入り

テ起レル農業上ノ問題ハ(一)「コルホズ」ノ收入分配(二)收穫及(三)穀物買付ニ關スルモノヲ主タルモノトス

(一) 「コルホズ」ノ問題

本年六月ノ共產黨本部(中央委員會)總會ハ收穫戰ニ關スル決議ヲナシ就中既ニ數量ノ上ユテハ成功セル「コルホズ」内部ノ整備發達ヲ試メ
一 「コルホズ」ノ收入ハ昨年ノ如ク人別ニ分配セスシテ労働ノ時間及質量ニ應シテ分配スルコトハシ労働帳簿ニ依リ労働日算定分ヲ定メ
二 労働組織ニハ出來高ヲ基礎トシ「トラクター」其他ノ機械、馬等

ニ受持員ヲ定メ組ニ依リ一定ノ收穫地域ヲ割當ツル等ノ制度ヲ定メ
 一 收入分配ハ一月十五日乃至二十日 ^近ニ終了スルコト、シ各種基
 金ノ積立、公共費割當等ヲ定メタリ
 右決議ニ基キ七月十二日聯邦農務部及「コルホズツエントル」ハ右收
 入分配ノ方式ヲ定メ ^{人民多ク之ヲ}附屬ノ認可ヲ經タリ
 右分配法ハ「コルホズ」ノ總收入ヲ(一)穀物其他ノ農産物(二)飼料及(三)金
 錢收入ニ分チテ之ヨリ左ノ費目ヲ差引タル後労働量ニ應シ分配ス
 (一) 穀物其他ノ農産物ハ特約ニ依ル(A)國家ニ賣上クル量(B)種子及保險
 基金(C)無能力者救済、教師、技手、獸醫等へ供給スヘキモノ及出稼
 人ニ分配スヘキ特別食料基金ヲ差引タル殘餘ヲ會員ニ分ツ
 種子分ハ來年ノ耕地擴張案ノ如何ニ依リ必要量ニ一割乃至二割ヲ加

B11

ヘタルノ、保險分ハ其一割乃至二割
 (二) 飼料ハ國家ニ賣上クルモノ、共有家畜飼料及保險ノ爲ニスル飼料
 等ヲ差引タルモノ
 (三) 金錢收入ハ(A)債務(貸下金等ニ對スル)(B)租稅(C)建設費、營業上
 ノ器具機械材料買入費及(D)特別公共基金ヲ差引タルモノ
 右差引タヘキ金額中機械、労働及營利用家畜購入資金及建設費ハ合
 計古キ「コルホズ」ハ一五%新設ノモノハ一〇%
 共有セラレタル財産ニ依ル分配高二%
 功勞アル會員、「ウダルニキ」等ヘノ「プレミヤム」一五%
 留學生費一五%
 文化施設費二%

B11

E-0285

収入分配ハ實行上幾多ノ困難ヲ免レサルヘク現ニ勞働日記載ノ帳簿サ
ヘ間ニ合ハス算定困難ナリシ地方多カリキ

(二) 收穫

「ウタライナ」、北高架索、「ウオルガ」中下流沿岸地方等南部ハ七
月上旬ヨリ冬蒔麥續テ早熟種麥ノ刈入ニ着手シ北部モ二十日前後ヨリ
刈入ヲ初メタルカ本年ハ晴天及暑熱強クシテ穀物ノ成熟例年ヨリ早ク
ナリ刈入ハ豫定ヨリ以上ニ強化スル必要ヲ生シタリ穀物ノ刈入狀況ニ
付農務部ノ公表ニ依レハ八月一日現在三千九百萬「ヘクタール」ニシテ
作付地ノ四四一%ニシテ其重ナル農耕地方別ヲ示セハ左ノ如シ(單位
千「ヘクタール」)

B11

「ウクライナ」	一三八一三	七七一
北高架索	五八三五	七八〇
「ウオルガ」河下流沿岸	四一四七	七三五
同上	四二〇一	六二五
中央黒土地方	三三二〇	五三六
全聯邦	三九〇二七	四四一
右部門別ニ示セハ左ノ如シ		
全聯邦	「ウクライナ」	北高架索
「コルホズ」	二七八八九	九七六〇
内MTC	一三二九八	四一六七
個人農家	九〇二一	三三七八
		四八〇

B11

E-0285

「ソフホズ」 三一一七 六七五 四七三
 内「ゼルトレスト」 一〇三二 一九五 三一七
 計 三九〇二七 一三八一三 五八三五

「ウクライナ」ノ穀物收穫状況ニ付キ「ウクライナ」政府農務部次長「スカルガ」ノ「インタービュー」ニ依レハ七月二十五日現在ニ於ケル「ウクライナ」ノ冬蒔及春蒔蒔ノ收穫振ハ甚タ不満足ニシテ全「ウクライナ」ヲ通シ現在ノ處六〇・二％ノ刈入ヲナシタルカ内譯スレハ「コルホズ」六五％「ソフホズ」五・一％個人農五〇％ナリ農具機械類ヲ多數ニ有スル「ソフホズ」ノ不振ハ如何ニモ看過シ得ヘカラサルニシテ其主因ハ「トレスト」當局ノ管理怠慢、機械殊ニ「コムバイン」ノ破損、機械使用ニ對スル無智識等ナリ各種「ソフホズ」ノ成績ヲ

BII

示セハ次ノ如シ

「ゼルトレスト」所管「ソフホズ」 冬蒔及春蒔蒔 三三・六％
 「ソユズサハル」所管「ソフホズ」 同上 三三・九％
 「セメントレスト」所管「ソフホズ」 同上 四七・七％

家畜「ソフホズ」ノ刈入状態ハ更ニ悪ク「スコタリヤ」及「ウクルモロコトレスト」ノ如キ刈入現狀ノ通報サヘナキ有様ナリ

個人農ノ刈入状態ハ現在約五〇％ナルカ其不振ハ主トシテ「コルホズ」トノ連絡ナキコトニ依ル

最も良好ナル成績ヲ舉ケ居ルハMTCニシテ七月二十五日現在ニ於テ冬蒔小麦ハ一六〇四千「ヘクター」、九五・三％裸麥ハ一〇四六千「ヘクター」、一〇〇％春蒔早蒔ハ一四五七千「ヘクター」、六七・七％ナリ

BII

E-0285

刈入ノ不振ニ並ヒ打穀モ非常ニ不成績ナリ
 秋蒔耕地ノ増起ハ豫定ノ千百萬「ヘクタール」ニ對シ現在ハ僅ニ三三二二
 八千「ヘクタール」ニ過キス
 地方機關ハ秋蒔耕地準備ニ對シ全ク無關心ノ態度ヲ採リ居ルノミナラ
 ス害蟲驅除ニ就テモ全ク等閑ナリ目下「ステツブ」地方ノ大部分ハ害
 蟲ニ侵サレ居レリ

(三) 穀物買付

穀物買付ハ本年ハ「ソフホズ」ノ擴張及「コルホズ」ノ増加ニ依リ農
 業ノ根本ハ之等社會化部門ノ手ニ移リ商品タル穀物ノ三分ノ二モ此大

B11

方面ヨリ得ラル、コト、ナリタルヲ以テ買付ハ非常ニ容易トナレリ七
 月中ノ穀物買付成績ハ「フラン」ノ一一四四%ニシテ七月末現在ニテ
 豫定年額ノ三四%ニ當リ其買付數量ハ昨年同期ニ比スレハ約二倍半ノ
 多量ナリト

右好成績ハ「コルホズ」ノ擴張ノ結果トセラル、處其部門別ハ左ノ如

「ソフホズ」 一〇四四%

MTC 一一四八%

「ガルトツエ」税 一〇一、四%

地方別ニ付テハ主タル農耕地方ノ中「ウクライナ」、「ウォルガ」河
 中下流、中央黒土地方等孰レモ成績ヨク「ウクライナ」ニ付テハ「ソ

B11

ユズフレブ」ノ調査ニ依ルニ七月中各種穀物買付高ハ昨年ノ七八九八一噸ニ對シ本年ハ三五〇八三六噸ニテ豫定ヲ超過スルコト七九九％ナルカ其實渡人別左ノ如シ

對「ブラン」％
 「コルホズニキ」及個人農家 一八、五六八 二三、四二％
 「ソフホズ」 五七、六八五 一〇、四九％

穀物ノ種類別左ノ如シ

小 麥	二六、四五	千噸	前年同期	四六、五	千噸
ライ麥	七、四四	千噸	同 上	一七、三	千噸

地方的ニハ成績不良ナル處アリ「オデツサ」「ライオン」ニテハ買付豫定年額一萬噸ニ對シ七月末三三％ヲ實行シ個人農家ハ僅ニ其豫定一

ブラン」ノ五二％ヲ遂行シタルノミ

然ルニ北高架索地方ハ大ニ不良ニシテ「ブラン」ノ六九、四％豫定年額ノ九一％ヲ實行シタルノミナリ

穀物買付契約組織ニ關シ黨本部ハ七月十五日付決定ヲ以テ左記要領ノ方針ヲ定ムル處アリタリ

一、穀物買付各機關ハ從來ノ如ク買付ト運搬トヲ別ニスルコトヲ買付作業ハ奥地ヨリ驛、「エレバトル」製粉場へ搬出スルヲ以テ完了セルモノトス

二、買付期間ハ南部及東南部ハ一月十日乃至十五日北部及東北部ハ二月十日乃至十五日迄トス

一、奥地ヨリノ搬出上ノ改善ヲ圖リ奥地ニ残留品無カラシメ集積地ノ設備ヲ完成スルコト
 二、集積地ノ引渡穀物ニ對スル代金支拂所ヲ千五百ヶ所以上新設スルコト
 三、買付作業ノ成功ヲ期スル爲各村ニハ「フレアジフセントル」(穀物畜類トラスト)ノ代表、各「コルホズ」ニハ其役員一名等ノ専任務員ヲ設ケ引渡、搬出、容器蒐集、穀物數量ノ統計等ノ事務ニ當ラシム
 四、例年ノ如ク買付援助委員會ヲ設ケ宣傳セシム
 五、買付ニ功勞アリタル者ニ對スル賞與制度ヲ設ケ
 六、個人農家殊ニ富農ノ納入義務履行ヲ監視シ個人商人ノ手ニ一粒モ

渡ラサル様スルコト
 「ユルホズ」政策強行ノ際從價ノ獨立農業ヲ營ミ居リタル農家はシテ反「ソウエト」又ハ反「ユルホズ」行動ヲトリタル富農トシテ居村ヨリ追放ノ上公權及選舉權ヲ奪ハレタル農民多數アリタル處最近「ユルホズ」加入者カ豫定計畫以上ニ増加セル結果ニヤ七月三日付ノ「デクレット」ヲ以テ「クラキ」カ追放ノ日ヨリ五年間「ユルホズ」ヲ組織セル農民及農業振興ニ關スル「ソウエト」政策ニ對スル闘争ヲ止メタルコトヲ事實上ニ立證シ復忠實善意ノ勤勞者ナルコトヲ事實ニ立證スルトキハ右期間經過後公權及選舉權ヲ恢復セラレヘキ旨定メラレタリ

E-0285

セ 公債應募状況

六月發行セル十六億留ノ五年計畫ノ第三決定的年ノ公債ハ都市ハ大體六月末ニテ募集「カムペイン」ヲ了リ村落ハ七月末トシタルモ其後モ之ヲ繼續セル處七月三十日現在ノ應募高ハ財務部ノ公表ニ依レハ應募額ハ十六億二百六十四萬二千留ニシテ政府ノ決定セル統制數字ヲ超過シ各地機關ノ定メタル迎遇作業「プラン」ニ對シ九四・八%ナルカ應募高ヲ聯邦共和國別ニスレハ左ノ如シ

金額(千留)	對「プラン」%	
ロシア	一一〇三・一四二	九三・八

ウタライナ	三二〇、三六二	九五五
白 露	三三、二五九	八一、九
後高架索	六六、一二八	一一〇、二
ウズベクスタン	四〇、四二九	八九二
タジクスタン	三、六九二	二四九
トルクメニスタン	七、三五二	六八、一
赤 軍	三〇、二七八	
計	一、六〇三、六四二	九四、八

又労働者農民別ニ見レハ左ノ如シ

労働者及勤務者	千留	對「プラン」%
	一、三二三、六一七	一一一、三

其他ノ市民	九三、三〇五	九五、一
都市計	一、三一四、九二二	
コルホズニキ	二一六、八四八	八五、五
個人農家	四〇、五九四	一六、九
村落計	二五七、四四二	五三、一
赤軍	三〇、二七八	
總計	一、六〇三、六四二	九四、八

村落ニ於ケル「プラン」ノ實行振ハ左ノ如シ

「コルホズ」個人農家計

ロシヤ	八七一	一六、九	五〇、五
ウクライナ	八六三	一、四	六九、八

白露	一一五、八	四、八	三三、三
後高架索	八三、八	二〇、一	五三、四
ウズベクスタン	七三、九	七、四三	七三、三
タジクスタン	六、五	〇、七	二、五
トルクメニスタン	二六、六	一六、七	二三、五

地方別ニ付テハ「タジクスタン」最モ不成績ナルカ村落ニ於ケル状態ハ白露カ「コルホズ」ハ豫定以上ノ應募高ヲ得タルニ反シ個人農家ハ五分ニ足ラズ「ロシヤ」共和國內ニ於テハ北高架索地方ノ如キ農業地カ「コルホズ」カ六九、四%個人農家カ八、八%ニシテ「ウォルガ」河中下流地方モ「ウクライナ」ト同様個人農家ハ八一、一%ノ間ニ在ルコトハ近來傳ヘラル、處ノ北高架索地方ノ農事不振ト共ニ經濟上大ニ注

E-0285

意ヲ要スル處ナリ

村落ニ於ケル公債募集成績ハ豫想外ニ悪シキモ財務部ハ尙應募ノ餘力アリトシ「ユルホズ」ハ公債ニ應募セサルモノナシトノ標語ノ下ニ今後モ募集ヲ繼續スル旨八月五日付ヲ以テ公表セリ
尙第一回拂込期ハ八月十五日ナリ

(終)

B11

E-0285

外高秘第九八號

昭和六年八月十五日

福井縣知事 斎藤直



内務大臣 安達謙藏殿
外務大臣 幣原喜重郎殿

敦賀商業生徒ノ浦塩旅行
感想ニ關スル件

本縣之敦賀商業學校ニ於テハ恒例ニ依リ
五學年年生徒中希望者ノ名ヲ服部横山
兩教諭引卒ノ下ニ去ル本月八日敦賀生徒
ノ天草丸ニテ浦塩ニ旅行シ昨十四日入港、全
船ニテ飯表セルガ其ノ感想ヲ内偵スルニ浦塩
到着ノ際ニ於ケル官舎ノ取調ハ相當寛大ナ
リシ屬一行ハ意外ナリシモノ、如キモ住民ノ疲弊
セル生活狀況物資ノ缺乏建築物其他目
ニ映ズ總テハ謂ヒ得サル殺風景ニシテ共產主義
制度ノ餘殃ヲ如實ニ見學シ、尚活動寫眞
常設館ハ共產主義宣傳ノモノニ既ニ飽タタルモ
、如ク觀覽者極メテ勤ナク却ツテ歌劇モノヲ
歡迎スル傾向アリ今ヤ彼国々民性ハ官々逐
、事業ヲ全管スルノ氣慨ナク唯如何ニシテ其ノ日
言業ニ耽溺シ得ルカラ苦ハスル模様ニ見及ケタ
リト云フ

右及申候也

昭和六年八月拾七日接受

昭和六年九月廿八日接受
第一號

機密公第一號

昭和六年九月九日

在ブラゴゴウエスエキンスク

領事代理 泉 頼 藏

外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

蘇官憲ノ武市々民中權利被奪者
ノ拉致ニ関スル件

本月廿日夜以来当武市民警及「ゲペウ」員ハ
市内「リリオンツ」(権利被奪者)ノ宅ヲ襲
ヒ夜陰ヲ利用シ主ナル家族ヲ男女ノ別ヲ
市郊外ニ拉致シ一定ノ場所ニ集合セシメ

E 1,2,0, 51-81

後現船ニテ何処ヘカ送致シツアル由ニテ今
商引續キ行ハレ「リリオンツ」ハ恐マトシ居レル
趣ナリ、右官憲ノ措置ハ如何ナル目的ニ
出ツルモノナリヤ判明セザルモ田次次拙報ノ通
リ客年未当地ニ於ケル燃料ノ不足夥シク自
下向寒ノ季節ニ當リ一般市民ノ不安ヲ招
キツ、アテテ九月一日ヨリ三日間市會
共産黨會議ニ於ケル市黨委員會日
書記「ガクエ」ノ報告演説ニ於テモ薪炭
ハ計画ノ五九%四〇〇立方米ヲ入年シタルノ
ミナルが故不足分ノ入年ハ刻下ノ急務ナル旨
ヲ告ゲコレが爲メニハ三千人ノ勞力ヲ要スベ
ク蓋シ然ラザレバ冬季一般住民ニ対スル

CII

CII

E-0285

燃料ノ供給ニ不足ヲ生ジタルノミナラズ工業計
画進行上ニモ支障ヲ来スと虞アルニヨリ場
合ニヨリテハ一ニ機関及企業ヲ臨時閉鎖シ其
ノ勤務者ヲ勤員ニテ之ニ当ラシムルニ至ルヤモ
知レバト迫速バ居ル(九月四日附公電一)号拙信
參照)ニ鑑ミ前記ヨリシエンツノ拙致ハ恐ラク木
材伐採輸送ノ為メ強制労働ニ服セシムル目
的ヲ以テ行ヘルモノナラズヤト思料セララル

右報告人

老信員送付先

在蘇大使

CII

E-0285

通商局

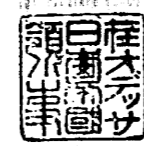
MET. C. O. X. 71 R1

公第八一號

昭和六年九月十一日

在オデツサ

領事 田中文



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

「ソ」聯邦經濟事情ニ關スル件

客月中ノ「ソ」聯邦經濟事情別紙ノ通致ニ報告申進ス

各別封筒及金封筒
蘇聯邦之部

昭和六年九月廿九日接受
別紙添付

正

「ソ」聯邦經濟事情

(八月)

在オデツサ

日本領事館

E-0285

「ソ」 聯邦・經濟事情

目次

一、 主要工業ノ生産及運輸狀況

(一) 石炭

(二) 製鐵

(三) 石油

(四) 泥炭

(五) 製紙

(六) 織物其他輕工業

(七) 「オヂツサ」ノ工業

B11

(八) 鐵道

(九) 河川運輸

二、 工業缺陷對策

(一) 増炭大計畫

(二) 炭坑住宅建築

(三) 技術宣傳

(四) 企業聯合ノ分割

化學工業

漁業

「セルノトレスト」ノ改正

林業組織

B11

E-0285

三 農業

(一) 收穫

(二) 穀物買付

(三) 秋蒔作物ノ播種

四 畜産業ノ發展計畫

(一) 畜産業發展ニ關スル指令

(二) 養豚業

(三) 養禽業

五 財政金融

(一) 上半期ニ於ケル收支狀況

(二) 國營企業ノ財政金融

BII

國營企業ノ營業狀態

經濟機關ニ對スル金融法改正

企業ノ獨立會計

運轉資金

企業利益ノ國庫納金率ノ變更

稅率ノ改正

(三) 貯金狀況

(四) 公債應募狀況

(終)

BII

E-0285

一、主要工業ノ生産及運輸狀況

各種工業ノ状態ハ八月ニ入りテモ益々不良トナリタルカ後半月ニ至リ
 稍々好轉ノ氣配ヲ示セリ然レトモ例月月末ハ月初ニ比シ生産急増スル
 ヲ以テ常トスルヲ以テ此好轉傾向カ九月ニ入りテモ持續セラル、ヤ尙
 疑ヲ有スル處ナリ

(一) 石炭

工業中最モ主タル石炭ニ付テハ八月採掘高左ノ如シ

採掘高 前年八月

B11

「ドンバス」

三、一〇、三〇〇 三、三、一八〇

内 機械掘 二、〇七五〇 二、〇六五〇

西伯利 六五八五 五六八九

莫斯科附近 八六三 一八七〇

豫定計畫實行不能ノ原因ハ從來通りニシテ對策ノ實施モ緩慢極マリ勞
 銀組織ニ於テハ出來高制度ハ炭坑ノ六割ニ行ハレアルモ各坑内ノ他團
 體ニハ適要セラレサルモノ多々アリ又當局ノ増産奨勵ノ努力モ減退セ
 ルカ如シ

(二) 製鐵

製鐵ノ産額モ八月後半ニ入り好轉シ「スタリ」各工場ノ生産額ハ左ノ

B11

E-0285

如シ

製造高(噸)

「ブラン」

對「ブラン」%

鉄 鐵 三一五四二九

四五〇九七九

七〇〇

鋼 二六五九六五

六三〇

之ヲ七月ニ比スレハ鉄鐵及鋼共各約一萬千八百噸ノ増加ナリ「ワスト
コスタリ」各工場ノ八月ノ成績ハ鉄鐵ハ豫定ノ五三・九%鋼五〇・一%ナ
リ

(三) 石油

本年七ヶ月間石油採取及再製量ハ左ノ如シ(單位千噸)

前年同期

石油採取

一三、五一、三

九、八四、五

再製量

二、一、五

二、九〇、四

八月採油量ハ二〇一、〇二〇噸ニシテ豫定ノ八二・六%其中「アズネフ
チ」ハ豫定ノ九五・五%、七月ニ比シ三%ノ減退ニシテ「グロズネフチ
」ハ七五・八%ナリ八月ノ採油量ハ七月ニ比シ〇・四%昨年同月ニ比シ二
・五%ノ増加ナリ

而シテ本年八ヶ月間ノ採油量ハ豫定計畫ノ八七・七%ナルカ昨年同月ニ
比スレハ二六・三%ノ増加ナリ

(四) 泥炭

八月末迄ノ泥炭採掘高ハ千五十萬噸ニシテ昨年同期ニ比シ四百萬噸ノ

B11

B11

E-0285

増加ナリ
 而シテ本年ノ泥炭採掘總額ハ千四百六十萬噸ノ豫定ニ對シ千百萬噸ナ
 ルヘシト
 泥炭利用上ノ問題トシテハ採掘セルモノヲ乾燥搬出等處理未了ノモノ
 著シキコトナリ

(五) 製紙

製紙ハ目下不足シ居リ之カ爲メ必要ナル出版モ制限セラレ居ル處本年ノ
 製紙豫定高ハ最初政府ノ認可セル統制數字ハ五十九萬五千噸ニシテ五
 年計畫ニ依ル一九三〇—三一年度分六十一萬噸ヨリ少カリシカ三月勞
 働國防會議ハ之ヲ増加シテ六十一萬一千噸トセリ

B11

本年上半年期ノ製紙高ハ豫定ノ八九八%ナリ七月及八月ノ所謂文化政治
 的種類ノ洋紙製造高左ノ如シ(單位噸)

	七月	對フラン%	八月	對フラン%
新聞用紙	一一、二一五	七七八		八、七
印刷料紙	一四、八一七	八九三		八六八
筆記用紙		八九七		五九八
計	二六、〇三二	七八〇	二六、〇九六	七六八

八月分ノ製紙高ハ「ボール」紙ヲ合シテ五六八八四噸ノ豫定ニ對シ四
 三七一三噸ニシテ七月ノ四三、六七三噸ヨリ僅少ノ増加ナリ而シテ大工
 場ニ於テ豫定通り製造セルモノ一モ無シ

E-0285

(六) 織物其他輕工業

織物其他輕工業ノ生産左ノ如シ

	七月	八月	八月累計	年豫定ニ對スル割合
綿布(百萬米)	一五八	一八三	三五四	五五二%
毛織物(ダラン)	七九七%	九五二%	八四五%	九九六%
製靴(對フラン)	七八四%	八四八%	四七二%	五五八%
ゴムガロン(對フラン)		七七二%	二八〇%	四三九%

備考 △印ハ八月間ノ「フラン」ニ對スル割合ナリ

(七) 「オデツサ」工業

上半期並ニ七月ノ工業成績ノ不良ニ關シ市黨委員會、市會、市職業組合評議會ハ八月十四日指令ヲ發シタルカ同指令中從來ノ成績及其不成績ノ原因等ニ關スル部分左ノ如シ

一九三一年上半期ニ於ケル「オデツサ」工業ノ成績ハ甚ク不振ニシテ工業財政計畫ハ僅カニ八九五%ノ實行ヲ見タルニ過キス特ニ生産ノ質的方面ニ於テ悪ク生産原價ノ低下ハ豫定ノ一一%ニ對シ三四%ヲ低減シ労働能率ハ勞銀増加カ豫定ノ一〇〇.八%ナルニモ不拘僅ニ八六三%ヲ實行シ得タルノミナリ上半期ニ於ケル生産不足額ハ二千萬留ニ達ス

「オデツサ」工業ノ基礎タル機械工業ハ依然トシテ不振ニシテ「十月革命」工場(農具)ニ於テハ生産原價低下率ハ豫定ノ一四%ニ對シセ

六%ヲ増加シ「スタロステナ」工場ハ一五%ニ對シ三三%、「フウオ
ロステナ」工場ハ一五%ニ對シ三八%、「十月十週年」工場ハ一七%
ニ對シ三四%ヲ夫々増加シ其他生産原價ヲ増加セルモノニ「キルヤ」
工場一三〇%、第一鐵詰工場一三九%、燐酸工場一八%アリ
上半期計畫未遂行ハ多數工場當局カ黨ノ屢次ノ訓令ヲ等閑ニ附シ「オ
デツサ」工業ノ具備スル生産條件ヲ充分ニ利用セザリシニ起因ス
工場當局者ハ労働ノ質的向上ニ付何等施策スル處ナク生産原價ノ低減
、能率ノ増進ニ關シテモ決議ノ發表、生産状態ノ批評ニ止リ之カ根本
的研究ヲ怠リ一方労働者自身モ本問題ニ關シテハ何等注意ヲ拂フ處ナ
シ勞銀ノ増加ト能率増進トノ關係ハ最モ良ク此ノ間ノ消息ヲ物語ルモ
ノト曾フヘシ例ヘハ「十月革命」工場ニ於テハ勞銀ハ「プラン」ノ一

BII

〇八六%トナレルニモ不拘能率ハ計畫ノ六八九%ニ止マリ「一月」工
場ニ於テハ勞銀一〇四%、能率八九七%、「スタロステナ」工場ニ
於テハ勞銀九八%、能率六三二%、「カリニン」工場ニ於テハ勞銀九
七三%、能率七三九%、過燐酸工場ニ於テハ勞銀一〇〇%、能率七五
三%、「ブド、トレスト」ニ於テハ勞銀一〇七九%、能率六一%ナリ
「オデツサ」工業ノ弱點ハ「労働組織」ニシテ本問題ニ關シテハ屢々
論セラレ居ルモ何等具體化スル處ナシ
労働力ノ配分、熟練工ノ適所利用、労働者ノ專屬主義等何等考慮セラ
レサルノミナラス合理化及發明ノ利用ニ關シテモ工場當局ハ些モ留意
スル處ナシ

内部資源ノ動員、材料ノ節約、製品ノ規格統一等根本的解決ヲ必要ト

BII

ス
近時企業經營費ハ著シク増加シ多數工場ヲ連シ二〇乃至二五%増ナリ
生産状態ハ著シク不足ニシテ一般ニ月初ハ能率擧ラス月末ニ至リ急激
ニ活動ヲ開始スルハ勞働規律ノ弛緩ヲ意味スルモノニシテ七月ノ成績
(八三・七%)八月上旬ノ成績一月豫定ニ對シ三四・四%内機械工業ハ一
八九%、化學工業ハ一八五%ニ微スルモ生産ノ不定狀ノ如何ニ甚シ
キカヲ知ルヘシ

獨立會計主義ハ未タ完全ニ實行セラレ居ラス生産計畫ノ實行ニ對ス
ル工場及個人的責任ノ排除ハ上半期計畫未遂ノ最大原因ナリ
夜業、深夜業ノ交替ニ關シテモ大ニ考慮ノ餘地アリ
「オデツサ」工業ハ上半期ニ於テ二億三千萬留ヲ生産シ下半期ノ豫定ハ

四億四千萬留ナルカ之ハ是非トモ實行ノ必要アリ本年三月ノ実績及其
他各工場ノ実績(第一皮革工場ハ生産原價低減ハ計畫ノ三六%ニ對シ
五五%ヲ低減シ、煙草工場ハ五五%ニ對シ二〇%ヲ低減セリ)ニ微シ
「オデツサ」工業ハ下半期計畫遂行ノ可能性ヲ充分具備スルモノナリ
「オデツサ」工業ノ八月分ノ成績ニ付テハ前記指令中ニ記載シアル通
リ一般「ソウエト」工業ノ現象トシテ月ノ下旬又ハ期末ニ至リ俄然生
産額増加スルノ例ニシテ八月ノ「オデツサ」工業モ月「プラン」ニ對
スル實行高上旬二四・四%、中旬二五・五%ニシテ下旬(十一日間)三四
七%計八四・六%ニシテ七月ヨリ一・九%ヲ増加セリ
然シ重工業ハ依然不成績ニシテ金屬及機械工業ハ月「プラン」ノ六八

BII

BII

%ニシテ七月ノ夫ニ比シ六二%ノ減退ナリ最モ成績良キ食品製造業ハ
七月ノ一〇四四%ニ對シ八月ハ一〇三三%ノ實行ヲ見タリ

(八) 鐵道

八月ノ鐵道運輸ノ成績ハ七月ニ比シ六二%ニ劣リ貨物積出數ハ一晝夜平均
五萬一千車ニシテ豫定ノ六七四五〇車ニ對シ約七五%七月ニ比シ減少
セリ但シ之ヲ去年同期ニ比スレハ六千車ノ増加ナリ
其他列車運輸上ノ事項ニ於テモ機關車及貨車走行里數ハ減シ機關車ノ
定時ニ着ケラレサルモノ一晝夜平均ニテ七月ノ七十二件ヨリ九十五件
ニ及ヒ本年二月ノ對策中最モ重要ナル機關車受持制度モ弛緩シ無責任
ナル混同主義復々^松頭シ八月上旬ニ於テ十四鐵道ニ亙リ五六三四件

BII

ノ本制度違反アリ其主たる原因ハ機關手ノ休息時間割ノ不良ナル爲ナ
リト

七月一日ヨリ實施セラレタル鐵道ノ獨立會計ハ幾多ノ曲解變態アリ今
日迄詳細ノ訓令ナク極テ概括的ニ糊塗的ニシテ本制度ノ如何ナルモノ
ナルヤヲ解セサルモノ不少、検査機構ハ未ダ準備ナキ狀態ナリ然シ今
日迄ハ之ヲ實行セルモノハ個々ノ機關車庫及機關車ニ止マルモ其成績
良好ニシテ機關車ハ著シク燃料ヲ節約シ發着時間ヲ正確ニセリト云フ
車輛ハ合理的ニ配布シ得サル爲メ不足ヲ告ケ且ツ獨立會計主義ヲ曲解
シテ各鐵道相互間ノ連絡ヲ缺クモノアリ

BII

新造車輛ハ著シク豫定ト差異アリ

ブラン 上半 期 實行

ブラン 七月、八月 實行

機關車	四四八	三八三	二八五	一二三
貨車	一六五三〇	六六六六	△一六八〇〇	◎一六二〇〇

△ハ第三期全體 ◎ハ八月十五日現在

此ノ原因ハ部分品ノ不足及工場一部カ使用ニ堪エサル等ナリ
 第三期ノ運輸計畫ハ八千八百十七萬噸前年同期ニ比シ三五%ノ増加ナ
 ルカ七、八兩月ノ成績カ七五%以下ナルヲ以テ九月ノ一晝夜ノ積出貨
 車數六六三二〇車トナリ第四期ニハ九千四百萬噸一晝夜平均六五、一六
 五車ナルカ秋冬期大量輸送期ニ於ケル輸送計畫ハ今ニ完全ナルモノナ
 ク鐵道ト荷主間ノ關係不圓滑ニシテ双方共無責任ニシテ責任ノナスリ
 合ヲナシ居リ前年ノ苦キ經驗モ正セラレサルカ如キ状態ニ在リト云
 フ

B11

(九) 河川船舶ノ運輸

八月中ノ河川船舶運輸量ハ二十五日迄ニ五百五十六萬噸ニシテ同月ノ
 「ブラン」ニ對シ四八、八%ナルカ航行期開始以來各河川合計二千七百
 七十二萬噸ニシテ本年全航行期運輸豫定額ノ三九、一%ナリ
 運輸貨物ノ主タル穀物ハ八月二十五日間ニ同月「ブラン」ノ五三、三%
 石油ハ三六、四%ナリ

B11

ニ 工業缺陷対策

六月ノ工業缺陷対策ニ關スル「スタリソ」演説ノ方針ニ依ル改正ハ漸次實現ヲ見ツ、アルカ部分的ニシテ其實行振緩慢ニシテ一般ニ普及セズ労働組織及勞銀ノ改正ノ如キ遅々トシテ其効果ニ付テハ小範圍ニ於テ良好ナルモノアリト稱セラル、モ一般ニ未タ現ハレヌ
右方針ヲ基礎トセル對策中八月ニ定メラレタルモノノ内主ナルモノハ「ブハリソ」ノ案ニ依ル黨部決定ノ技術ヲ増進スヘキ宣傳及實行方法ト石炭ノ増産大計畫ナリ

B11

前月ヨリ引續キ企業聯合ノ分業^カ行ハレ穀物農業、林業等其變更ノ重ナルモノナリ

(一) 増炭大計畫

本年ノ石炭採掘豫定高ハ一九二九年ノ實採炭高四千百十萬噸一九三〇年ノ四千八百八十萬噸ニ對シ八千三百六十萬噸ニシテ其重ナル内譯ハ
一九三一年統制數字 一九三〇年實採炭高

「ウゴリ」(ドンバス)	五六〇	三七七
「ワストコウゴリ」(東方炭坑)	四七	一八
「モスコ」地方	二二〇	九三

B11

ナ
ナル處本年ノ採炭成績ハ不良ニシテ「ドンパス」ノミニテモ過去七ヶ月實採炭高二千二百十七萬噸ニシテ豫定ニ達セサルコト千二百三十九萬噸ニシテ當局ハ之カ對策ヲ講シツ、アルモ此分ニテ進マハ本年ノ採炭ハ豫定ニ達セサルノミナラス昨年ニ比シ僅カノ増加ニ止マルヘキ情勢ニ在リ

然ルニ「ソ」聯邦當局ハ採炭法ノ機械化ニ依リ右ノ缺陷ヲ取戻シ尙進テ大計畫ヲ立テ共產黨本部ハ八月十五日付決定ヲ以テ石炭及「コーク」資源増加ニ關スル計畫ヲ示セルカ大要左ノ如シ

一、石炭業發展方針

石炭業發達ノ「テンポ」ハ他ノ産業ニ比シ大ニ劣リ居リ斯クテハ一九

BII

三三年銑鐵千七百萬噸製出計畫ノ實現ヲ危クスルモノアリ且ツ新炭坑及地方燃料ノ利用不充分ナル爲重要工業ヲシテ其所要炭ノ供給ヲ遠隔ノ「ドンパス」ニノミ仰クニ至レリ

石炭業本年ノ投資的^{資本}大事業費ハ前年ノ二億九千五百萬留ニ對シ六億二千八百萬留ニシテ其費額ノ増加率ヲ重ナル炭坑別ニスレハ「ドンパス」ノ九二%ナルニ「ウラル、クズバス」ハ三四%ナリ之ハ新炭坑ノ發達ニ主力ヲ注キツ、アルコトヲ證スルモノニシテ將來モ此方針ヲ續行スルヲ要ス

三、採炭增加計畫

一九三三年銑鐵千七百萬噸製出案ヲ成就スル爲メニハ同年ノ採炭高ヲ

BII

一億四千萬噸内「コークス」用炭三千六百萬噸ニ達セシムルヲ要ス之
カ爲メニ左ノ方策ヲ講ス

(一) 一九三二年ノ炭業投資的事業費ヲ九億留以上トスル

(二) 本年中左ノ各新坑ニ於テ採炭開始及工事ニ着手ス

	採炭開始	工事開始
	坑	坑
	百萬噸	百萬噸
「ドンバス」	四九	一七〇
「タズバス」	二二	七〇
東部西伯利	七	三六
「モスクワ」	一〇	三〇
「ウラル」	一	二四
		一八五
		二〇六
		三〇
		三九
		五三

BII

「カラガンダ」	一	一	一二	五三
中 亞	一	一	一	〇二
極 東	一	一	七	三〇
其他共合計	九〇	二九〇	九五	五〇〇

BII

三 鑛山機械ノ製造

(一) 現有十六工場ヲシテ専ラ鑛山用機械ノ製造ニ當ラシムルコト、シ

其改善工事ハ明年第三期及第四期中ニ十一工場ヲ竣工セシム

(二) 一九三二年中五工場ノ新築ニ着手シ一九三三年第一期ニ三工場第

二期ニ二工場ヲ竣工セシム

(三) 右工場新築及改造費一九三二年分ヲ一億三、四千萬留トス

E-0285

(四) 右ニ依リ一九三三年ニハ炭坑及鑛山用機械ノ外國輸入ヲ全然停止
セシム

(五) 本年中左ノ機械ヲ製造ス

第三期

第四期

臺

臺

荷役機

一五〇

一五〇

「トラクター」

一五〇

1

輕採炭機

五〇

五〇

(六) 一九三二年末迄ニ機械修理工場ヲ完備ス

(七) 電氣機器裝置ノ完成ヲ圖ル

四 従業員ノ待遇改善

(一) 炭坑従業員及其家族ニ對スル食料及日用品ノ供給ヲ増加ス

(二) 一九三二年ノ各炭坑ノ住宅建築豫定ハ二百五十萬方米トス

五 其他

(一) 「カラガンダ」ヲ聯邦第三ノ炭坑トスル爲メ左ノ方策ヲ講ス

(二) 最高經濟會議ハ本年工費二千萬留ヲ以テ試掘中ノ十六炭坑ニ付一

九三二年ニハ三百乃至三百五十萬噸、一九三三年ニ千二百萬噸ヲ

採掘シ得ヘキ案ヲ十月一日迄ニ作成スヘシ

(三) 本年十一月一日迄ニ「アクモリンスク」「カラガンダ」間鐵道ヲ

竣工明年中ニ採炭全部ヲ搬出シ得ル様ニシ線路及給水設備ノ改良ヲナスヘシ(備考参照)

(三) 郵電部ハ「カラガンダ」ト地方中心地トヲ連絡スル電信線及各炭坑内電話網ヲ架設スヘシ

(四) 炭坑ノ經營開始ニ從ヒ商業、公衆食堂、學校、文化、衛生設備ヲナス

六 其他

(一) 「ウラル」ノ動力用炭供給ノ爲メ「イマンヂリン」(「チエリヤ」^{附近}「ピンスク」)地方ノ試掘ヲ促進スルコト

(二) 西西伯利及極東向石炭トシテ西伯利鐵道沿線ニ於ケル試掘ヲ盛ニシ一九三二年ヨリ新舊坑ノ採掘ニ着手スルコト

(三) 一九三二年中ニ三炭坑開鑿ニ着手シ本年中「メリニコウオ」「シユラブ」間及「ウチ、クルガン」「ナルイン」間技線建設ヲ完成スルコト

(四) 一九三二年第二期迄ニ「スウチヤン」炭坑鐵道ヲ廣軌ニ改築スルコト

(五) 「ツクワルチエリ」炭坑工事ヲ一九三二年第四期ニ完成シ「オチエムチエリ」港ヲ修築シ一九三二年九月ニハ出炭セシメ得ル様ニスルコト

(六) 「コークス」聯合ヲ東及南ノ二聯合ニ分割スルヲ妥當ト認ム備考 第五項(二)ノ「カラガンダ」ニ至ル鐵道ハ「ベトロパウロフスク」(西伯利鐵道)ヨリ「ボロウオエ」(此間二百軒)「

B11

B11

アクモリンスク」ー「カラガンダ」ー「カザクスタン」鐵道ニシテ本鐵道ハ昨年夏工ヲ記シタルカ冬期ハ指導不良ノ爲メ休止ノ姿ニテ本年五月再ヒ工事ニ着手シ本年ハ五千萬留一九三二年九千萬留ヲ投資スルモノナリ

炭坑住宅建築

「クズバス」、「ウラル」、「モスコ」附近及「カラガンダ」等各炭坑地労働者用住宅建築ニ付テハ本年三月二十五日付黨部ノ指令ニ依リ十月一日迄ニ「スタンダード」住宅四十萬方米ヲ建ツヘキ處實行委員會ニ報告セラレタル處ニ依レハ八月十日迄ニ十二萬二千方米建築アリタルノミニテ就中「ウラル」ハ六萬五千方米ノ豫定ニ對シ一千一百

B11

方米ニシテ八月二十日迄ニ住居ニ至レルモノ一棟モ無キニ付同實行委員會ハ機關及其責任者並ニ最終期ヲ十二月一日ト定メテ其完成方ヲ決定スル處アリタリ

尙九月一日迄ニ各炭坑地方労働者「スタンダード」住宅ノ部分品ノ到着セル分ハ全體百一萬二千方米ノ豫定ニ對シ五三三%ニシテ各炭坑別ニスレハ左ノ如シ(單位千方米)

	到着高	對「プラン」%
「ドムス」	三三三	五七六
「クズバス」	一六〇四	六三四
「モスコ」附近	二二一	三三四
「ウラル」	三七	五七

B11

E-0285

尙新規二十月一日迄ニ到達セシムヘキ分百十四萬八千方米アリ前月ノ遂行未能ノ分ト共ニ大ニ努力ヲ要ス

(二) 技術宣傳

工業缺陷及生産計畫遂行對策ノ一トシテ「スタリソ」カ指摘セル技術ニ熟達セシムル方法ノ一段階トシテ「ブハリソ」ヨリ黨本部ニ對シ技術宣傳及其組織ニ關スル報告ヲ提出シタル處本部ハ八月五日付ヲ以テ右ニ關スル決定ヲナセリ

「ブハリソ」ノ報告書ニハ社會的改造ニ當リ建設ヲ阻礙スルモノハ熟

BII

練労働者及専門技術家ノ不足ニシテ他方機器ノ増加トノ間ニ益々間隔ヲ廣クセントス依テ技術的智識ノ啓蒙ノ爲メニ普通教育、工業學校及實物教育及各種ノ技術宣傳ヲ必要トスル趣旨ニテ技術宣傳ノ目的、手段及組織ニ付記述セリ

黨本部ノ決定ノ要款左ノ如シ

- (一) 工學及科學文書出版ノ爲メ國家出版部ヨリ之ヲ分離シテ最高經濟會議ノ所管トシ印刷材料ノ四分ノ一ヲ同部ニ引渡スコト
- (二) 技術宣傳用「キネマ」材料ヲ供給スルコト
- (三) 「ラヂオ」ニ依リ無電局ハ定期的ニ挿話的組織的技術宣傳ヲナス手段ヲ講スルコト
- (四) 技術的大衆教育及宣傳參考品製造ノ特別「トラスト」ヲ創立スル

BII

コト

(四) 一九三二年ニ中央博物館建築ニ着手スルコト

(五) 十月革命十五年祭ヲ「モスクワ」ニ工業展覽會ヲ開催スルコト

(六) 特別技術新聞ヲ刊行シ科學技術雜誌發刊ヲ促進スルコト

(七) 生産協議會副會長ニ技術宣傳事務ヲ指導セシム

(八) 右宣傳費ハ最高經濟會議技術宣傳科所管トス

(三) 企業聯合ノ分割

(一) 化學工業

八月七日付黨統制委員會幹部會、監察部參與會及最高經濟會議幹部會

ノ決定ニ依リ化學工業管理ヲ左ノ通り改正セリ

一 「フェヒムプロム」(全聯邦化學工業) Всехимпром

リニ左ノ七聯合ヲ新設ス

軍事化學「トラスト」(Военхимпром)

「アニリン」染料 (Анхитром)

染料 (Дякохраска)

加里「トラスト」

化學藥物 (Химфармпром)

「バルブ」 (Пластимаспром)

基本化學

BII

BII

ニ 化學工業發達ノ主義的大問題解決ノ爲最高經濟會議附屬トシテ同
次長「ビヤタコフ」ヲ議長トシ同會議化學工業課長及基本的化學
團體ノ指導者ヲ以テ組織スル化學工業評議會ヲ設ク
八月八日付同上決定ニ依リ製紙「トラスト」ノ企業ヲ左ノ通り改
正ス
一 「ソユズフマギ」ノ管轄ニ大工場三十ヶ所ヲ殘シ他ノ六十四工場
ハ共和國最高經濟會議及地方ニ移管ス
「ソユズフマギ」管轄ノ三十工場ノ生産能力ハ製紙及「ボール」
紙ハ全聯邦生産額ノ七六%「バルブ」ノ全部ナリ

漁業

B11

漁業聯合「ソユズルイバ」ヨリ極東漁業ヲ分離シ獨立ノ「ウオーストク
ルイバ」聯合トシ供給部ニ直屬スルコト、セリ

「ゼルトレスト」ノ改正

穀物耕作「ソフホズ」ノ「トラスト」タル「ゼルトレスト」ハ一九
二九年以來「ソフホズ」ノ數ハ二十倍ノ二百七ヶ(内米作「ソフホズ
」十七ヶ)ニ達シ右建設ノ五年計畫ヲ三年間ニ實行セリ然ルニ之等多
數ノ「ソフホズ」ヲ一中心ヨリ指導スルコトハ困難ニシテ且ツ生産改
良收穫率増加等農業技術ノ改善ノ爲メニ「スタリン」ノ方針ニ從ヒ且
目下ノ穀物收穫上成績ヲ舉クル爲メ八月二十五日聯邦農務部決定ヲ
以テ之ヲ九「トラスト」ニ分割セリ

B11

聯邦「トレスト」ハ左ノ地域ニ分ツ		中心所在地	「ソフホズ」 數
(一)	極東及東部西伯利	「ハバロフスク」	二二一
(二)	西部西伯利及「カザクス タン」北部	「ノウオシビリスク」	三二二
(三)	「カザクスタン」及中亞	「アルマ、アタ」	二一〇
(四)	「ウラル」及「バシキリヤ」	「スウエルドロフスク」	二二八
(五)	北高架索及「アゼルベイジ ヤン」	「ロストフ」	二二七
(六)	「ウタライナ」及「クリ ミヤ」	「ハリコフ」	二二二
(七)	「モスコ」 「ウオズネセンスカヤ」及 「ウオルガ」河中流沿岸	「モスクワ」 及中央黒土地方 「サマラ」	九
(八)	「ウオルガ」河中流沿岸	「サマラ」	二二八
(九)	「ウオルガ」河下流沿岸	「サラトフ」	二一〇

B11

二	「トラスト」ハ工場企業同様ノ獨立會計トシ一九三二年一月一日ヨリ全然獨立會計ニ移ル
三	九「トラスト」ノ聯合機關トシテ「ゼルノ、ソフホズ、オブエジ ネニエ」ヲ設ク同機關ハ各「トラスト」ノ管理、計畫、財政、物 品ノ需給並ニ總括財政計畫ノ作成及其實行監督等ニ關スル農務部 ノ一機關トス同機關ハ「ソフホズ」支配人ノ任免權ヲ有ス「トラ スト」支配人ノ任命ハ農務部ニ有リ
四	「ソフホズ」ノ大サハ目下ノ要求ニ應スル爲收穫地積四、五萬「 ヘクター」ヲ標準トシ現「ソフホズ」面積ヲ加減シ各區ノ大サヲ 六、七千「ヘクター」トス
五	農業技術ニ最大ノ注意ヲナシ多收穫ヲ期スル爲メ管理部員ヲ増加

B11

E-0285

シ聯邦及「トラスト」ニハ支配人代理各三名「ソフホズ」ニハ支配人代理二名助手一名ヲ置キ農業技術方面ニハ右代理一名専ラ之ニ當ル

六 本改正ハ九月十日ヨリ實施ス

(四) 林業組織

山林伐採整理、山林復興、「ウオルガ」、「ドン」及「ドネブル」河流水及旱魃時ノ砂漠化防止ノ爲メ八月閣議ハ林業組織ニ付キ決定シタ
右重ナル條項左ノ通

一 全國ノ山林ヲ營林(工業用トシ得ヘキ山林)ト造林ノ二地帯ニ分

B11

テ前者ハ最高經濟會議、後者ハ農務部ノ管轄トス造林地帯ニアツ
テモ沿岸及北高架^案及「タタル」共和國山地ニ於ケル輸出向ノ林木ハ最高經濟會議ニ於テ管轄シ之ヲ伐採シ他方營林地帯内ニ在テモ治水上必要ノモノハ農務部ノ山林ニ準ス

造林地帯ニ於テハ林木伐採ハ林木成長量ヲ限度トシ復集約的伐採ヲ許サス但シ初メ三年間ハ伐採量更ニ減少シ一九三二年ニハ前記三河ノ水源地域ノ伐採ヲ止ム

本三河ノ中流、上流兩岸一軒地帯ハ伐採ヲ禁ス

農務部ハ治水上必要ノ空地ニ五年間ニ二一三百萬「ヘクター」一九三二年ニ十萬「ヘクター」ヲ植林スルコト

農務部ハ水運部ト協議ノ上河原、斷崖、貯水地、溝渠等植林スル

B11

E-0285

コト

一九三二年ノ事業ハ防砂林四萬「ヘクタール」、崖山ノ傾斜修築三萬一千「ヘクタール」、荒地植林七萬五千「ヘクタール」、植草四萬五千「ヘクタール」、工業用作物植付第二五年計畫トシテ五萬「ヘクタール」及苗圃四千「ヘクタール」

断崖修築及植林一九三一年ヨリ三七年ニ至間

断崖修築

植林

「ウオルガ」流域	三七千「ヘクタール」	一一
「ドン」	一一千「ヘクタール」	一〇〇
「ドネエブル」	一三千「ヘクタール」	三七
苗圃ノ開設	三千「ヘクタール」	

林業管理

右林業組織ノ變更ニ伴ヒ林業行政ニモ改正ヲ加ヘ

一 最高經濟會議ニハ森林本廳ヲ設ケ議長代理一名ヲ長トシ

二 農務部ニ森林ノ復興及保護、植林ニ關スル專務機關ヲ設ケ人民委員代理一名ヲ其長トシ

三 林業聯合「レソプラムホズ」ヲ北西部、北方、西部、「ニイジエゴロド」、西部西伯利、東部西伯利、白露ノ地方的區域ニ依ル七聯合ニ分チ域内林業「トラスト」ヲ管轄セシム「トラスト」ハ伐採搬出ト製材トニ分ツ

BII

BII

E-0285

三 農業

穀類ノ刈入ハ八月中ニ最盛期ヲ過キ七、八割ヲ了シタルカ打穀ハ其四割ニ及ハス刈倒シタル儘畑ニ在ルモノ二割ナリ穀物買付高ハ大體豫定ニ近キモ北高架索地方「ウォオルガ」河沿岸不成績ナリ八月中過キヨリ北部ハ秋蒔ノ時季トナレリ

「オデツサ」方面ニ於テハ穀物刈入レ買付等大ニ進捗セルカ不作ノ故ニテ農家ノ手持ハ極ク少量ナリト

(一) 穀物ノ收穫

穀物ノ收穫ハ農務部ノ發表ニ依ルニ九月一日現在ニテ

コルホズ	四七〇四〇	千「ヘクタール」
個人農家	二三三八七	同
ソフホズ	四九三一	同
計	七五三五八	同上

ヲ刈り早熟及中手ハ八三、四％晩熟ハ二三、三％ニ當リ南部各地方ハ前者ハ全部ヲ完了シタリ

右刈入穀物ノ打穀高ハ全國ニテ二八〇七三〇〇〇「ヘクタール」即チ三七五％永堆ニ堆積済ミノモノ三〇、九六九〇〇〇「ヘクタール」即チ四、九％ニシテ其餘ノ約二割ハ刈倒シタル儘畑ニ横ハレル次第ナリ

打穀及堆積ノ成績ニ付テハ主ナル農業地方ハ左ノ如シ「單位千「ヘク

B11

B11

ター)

	刈	倒	打	穀	堆	積	計
ウクライナ	一八四一六	九八四五	七六〇三	一七二六一			
北高架索	七七八六	四七五一	三七九二	七五四三			
ウオルガ河下流	七〇二五	三三八五	三九七八	六三六三			
同 上中流	七三七四	三三四〇	四〇五五	六三九五			
中央黒土地方	七五三七	三〇一〇	四二六〇	七二七〇			

(一) 穀物買付

政府ノ穀物買付ハ前年來ノ輸經驗ニ依リ組織モ漸次完成シ殊ニ「ソフホズ」、「コルホズ」等社會化部門ノ生産ノ大部分ヲ占ムルニ至レル

ヲ以テ前年ニ比シ容易ニ行ハル、コト、ナリタリ其間「コルホズ」中ニハ黨部及政府指令ニ反シテ自家用食料ヲ一年分全部一時ニ最初ニ控除シ特約分及賣上ノ分ヲ後廻ニセルモノナキニ非サルモ大體ニ於テ順調ニ進行シツ、アリ

八月ノ買付高ハ豫定ノ九六六%ニシテ八月末現在買付高ハ年豫定額ノ二三八%ニシテ昨年同期買付高ノ倍額ニ達セリト
地方的ニ觀ルニ「ウクライナ」ハ八月分「プラン」ヲ遂行スルコト一〇九四%、年額ノ二九%ニ及ヘルカ重ナル農業地方中「ウオルガ」河沿岸及北高架索地方ハ成績不良ナリ

(三) 秋蒔作物ノ播種

E-0285

一九三一年七月十一日付「デクレット」ニ依ル秋蒔作物ニ關スル豫定
ハ左ノ如シ（一九三〇年分ハ同年ノ「プラン」ナリ）

ニ 一九三二年春蒔作物付地ノ爲舉起地積

一九三一年 一九三〇年

全體 四二百萬「ヘクタール」 六〇

内 ソフホズ 九同 上

コルホズ 三一同 上

内 MTC 一五同 上

新地及休閑地 大同 上

三 秋蒔作物付段別（單位千「ヘクタール」）

一九三一年 一九三〇年

B11

三 作物別（單位千「ヘクタール」）

一九三一年 一九三〇年

小麥 一五〇〇〇 一三三六三

ライ麥 二七四五五 三〇一八五

大麥 四四五 四五二

日向葵 二五〇

菜種 一〇〇

全體 四三二八〇 四三〇〇〇

内 ソフホズ 三二八六〇

コルホズ 二六〇〇〇

内 MTC 九〇〇〇

B11

E-0285

四 撰種作付段別 (單位千「ヘクタール」)			
	一九三一年	内國家種子用	一九三〇年
小 麥	一、五〇〇	五〇〇	七〇〇〇
ライ麥	三、五〇〇	七五〇	三、四〇〇
五 特約耕地積 (單位千「ヘクタール」)			
トラクトルツェントル	九〇〇〇		
セメノウオドコルホズ	六五〇		
ツェントル養種コルホズ			
フレブジフツェントル	二、六七五		
六 地方別作付地積 (單位千「ヘクタール」)			
	一九三一年	一九三〇年	對前年%
露西亞	二八三〇〇	二八五三五	一〇九〇

内 ウォルガ中流 三、九五〇			
同 下流	三、六〇〇		
北高架索	四、五〇〇		
ウクライナ	一、二〇〇	一、一〇〇〇	一一三三
其他合計	四、三二八〇	四、三〇〇〇	一〇九六
八月末現在秋蒔作物作付狀況ハ農務部ノ發表ニ依ルニ左ノ如シ (單位千「ヘクタール」)			
部 門	全 國		「ウクライナ」
コルホズ	六、二三一		一一三四
内 M T C	六、九七〇		一六一

E-0285

個人農家、	三六六一	三〇
ソフホズ	一九九	一
内 ゼルノトレスト	六七	一
計	一〇〇九一	二六四
對ブラン%	二三五	三四

B11

四 畜産業ノ發展計畫

畜産業ノ狀態並ニ其發達ノ計畫ニ付テハ本年四月拙信報告「ソ」聯邦國民經濟一九三一年統制數字中畜産業ノ項ニ記載セル處今日迄ノ狀態ニ於テハ豫定ノ計畫ノ進捗ヲ見ス其遂行ノ如何モ期シ難キヲ以テ黨及政府ハ七月三十日付指令ヲ以テ第六回「ソウエト」大會ノ決議通り之ヲ發展セシムル爲メ具體的方策ヲ定メ夫々手配スル處アリタリ社會化畜産業ノ現狀ニ付キ新聞紙「ブラウダ」所報ニ依リ本年七月一日現在家畜數ヲ示セハ左ノ如シ

B11

E-0285

		一九三〇年末	一九三一年七月末
「ソフホズ」		千頭	千頭
牛	「スコトウオド」	一九二	二五〇
	「マスコトレスト」	三三〇	二一八
	其他	一一五	二七〇〇
羊		九〇	一一六
豚		七五八〇	七四五
乳牛		一〇〇〇〇	六六五
家		七〇	二八〇〇

(一) 畜産業發展ニ關スル指令

畜産業發達方法ニ關シ七月三十日付「モロトフ」及「スタリン」ノ指令左ノ如シ

黨本部（中央委員會）及聯邦内閣（人民委員會）ハ畜産界ノ社會化部門（「ソフホズ」、^ル「コルホズ」商品農場）ヲ創設シ之ヲ充實セシムルヲ以テ最近ノ將來ニ於ケル農業ノ中心問題トシ一九二九、三〇年ノ二年間ニ於テ社會化主義粒穀農業カ獲タルト同様ノ決勝ヲ畜産業ニ於テハ一九三一年及一九三二年ノ兩年ヲ期シ獲得セントス

社會化畜産業ハ其存立ノ短期ナルニ不拘著シキ發達ヲナシ左ノ畜群ヲ有ス（單位千頭）

E-0285

畜産「ソフホズ」
 「コルホズ」商品農場
 牛 二〇〇〇
 牡牛 七四五
 豚(種畜) 二五〇
 「スウイノウオド」豚 五〇〇
 「ソフホズ」
 又「バター」製造高ニ關シテハ本年七月一日現在乳酪「コルホズ」及畜産「ソフホズ」ノ政府納付高ハ六十八萬布度ナリ「コルホズ」商品農場及「インダバートル」養傷場ハ「コルホズ」産業發達ノ現在ノ普通組合過程ニ最適ノ社會化養畜(傷業)型態ニシテ「ソフホズ」ト共ニ商品畜産業創設問題ヲ最適ニ解決スルモノナリ此型態ノ企業ニ依ルトキハ產品ノ商品率ハ牛乳及「バター」ニ付テハ個人農家ノ一、二割、普通「コルホズ」ノ一割乃至三割ニ對シ七割トナルヘキヲ以テ百方之ヲ獎

BII

勵スヘシ
 「ソフホズ」及「コルホズ」商品農場發展ニ付キ其數量上ノ成功ト共ニ飼養法、「ソフホズ」「ソユズ(トヤソ)」ニ於ケル畜種等ニ缺點アリ及政府ハ「ソフホズ」及「コルホズ」ノ組織ニ依リ粒穀問題ヲ解決シ得タリ畜産業ノ發達、畜産量ノ増加モ從來ノ經驗ニ依テノミ所期シ得ヘク本年ニ於テ其基礎ヲ確立スヘシ
 依テ黨本部及聯邦内閣ハ次ノ如ク決定ス
 ◎家畜ノ増加
 一、一九三一年末迄ニ家畜ヲ次ノ頭數ニ達セシム(單位千頭)
 牛 豚 羊 鹿 家禽
 「スコトウオド」 三、八〇〇

BII

E-0285

「スイノウオド」(養豚)	一九〇〇
共和国「モロチスイ トレスト」(牛乳)	二六〇
内 露西亞共和國	一三〇
モロコトレスト	
「マスロトレスト」(牛酪)	一八〇
「ソユズサーハル」(製糖)	一四〇
	四〇
「オフツエウオド」(養羊)	四八〇〇
露西亞共和國「オレノウオド」(養鹿)	二〇〇
「プチツエトレスト」(養禽)	三〇〇〇
「モロコホルホズツエトル」(牛乳)	二五〇〇
「スイノウオド	
「スウイノウオド	
「ホルホズツエントル」(養豚)	七〇〇
「インクバトロプチツエツエントル」(養禽)	一〇〇〇〇

△備考 「マスロトレスト」ハ豫定ニ對シ七萬噸増「ソユズサーハル」ハ豫定ニ對シ五萬噸増「オフツエウオド」ハ豫定ニ對シ八十萬噸増加ナリトス

一、供給部ハ「ソフホズ」及「ホルホズ」商品農場ニ對シ左記數量ノ家畜並ニ家禽ヲ交付スヘシ(單位千頭及千羽)

家畜	内十月一日迄ニ
牛	一七〇〇
仔牛	二五〇〇
豚	六一〇〇
牡豚	四一五
羊	三一五
家禽内 鶏	二〇〇〇
	五七〇

E-0285

養

七五

家鴨

三〇〇

「コルホズツェントル」ハ其組合員ヨリ買入及共有部分ノ増殖ニ依リ「コルホズ」共有家畜ニ左記數量ヲ増加スヘシ（單位百萬頭）

一九三一年度 一九三二年度

仔牛 一五 四〇

仔豚 〇五 三〇

仔羊 一〇 三〇

地方黨機關及農務當局ハ「コルホズ」商品農場ノ爲ニ「コルホズ」ヲシテ其共有畜類ノ一部割當並ニ買入ニ對シ極力援助スヘシ

供給部ハ屠殺前ニ企業用ノ種畜ヲ選擇セシメ復種畜ノ屠殺ヲ禁シ

B11

農務部ハ「ソフホズ」用種畜ハ計畫及地方ノ如何ニ不拘之ヲ受入ルヘシ

◎家畜生産物ノ納付

畜産「トレスト」及「コルホズ」商品農場ノ生産納入計畫ハ次ノ如ク定ム（單位千噸）

「マスロトレスト」(牛酪)	三五					10000	
「スコトウオド」	四〇	四八三					
共和國「マロチヌイトレスト」(牛乳)	一〇						
「ソニスサーハル」(製糖)	三四	一八五					
「モロコルホズツェントル」(牛乳)	二二〇						
			牛各	肉類	毛皮	印子箱	牛乳
							酪素
							(乳酪)

B11

E-0285

「スウィノウオド」(養豚)	一八〇						
「ポソエツド」(養羊)	八〇	八〇					一九
共和国畜産下レス止 及「スロトレス」止	六〇						
「スウィノウオド」(養豚)	四八						
「ポソエツド」(養羊)							
「インクバロ」(養食肉)							
共和国「コウオチ」(養乳・蔬菜)							
計	三四九	一〇三六	八〇	五〇三	一六〇〇	一、〇〇〇	五九
内「ソフホズ」	一一九						

食品工業、公衆賄及市近郊ノ屠物ニ依ル家畜飼育ニ關スル供給部
ノ計畫ニ依ル一九三一年十月一日ヨリ一九三三年一月一日ニ至ル間

飼育家畜數ヲ(單位千頭)

牛	五〇〇	一一五〇
豚	二一〇〇	四五二二

内一九三一年第四期

肉類供給上養豚、養禽、養兎ハ重要ナルニ付地方黨機關及農務部
並ニ「コルホズ」機關ハ之ニ注意シ「スウィノウオド」コルホズツエ
ントル」ハ一九三二年中ニ二百萬頭以上ノ豚ヲ飼育賣上クヘク「ス
ウィノウオド」コルホズツエントル」ハ^未養豚、養禽商品農場ヲ有
セサル各「コルホズ」ヲシテ其基礎ノ強弱如何ニ應シ左ノ割合ニテ
共同養殖ヲセシムヘシ

E-0285

豚 一〇一五〇頭
 羊 一〇五〇頭（牧羊地方）
 家 一〇〇一五〇〇羽（養禽地方）
 兔 一〇〇一五〇〇疋（養兔地方）
 尙「ツェントロソユズ」ハ農村消費組合ニ對シ同様任務ヲ與フヘシ
 畜産「ソフホズ」及「コルホズ」商品農場ノ生産商品納付計畫ノ
 實現ノ爲地方黨機關及農務部ヲシテ納付ノ状態ヲ監督セシムル外計
 畫超過ノ場合ニハ「アレミヤム」贈與及質銀ノ割増ヲナスヘシ
 ◎飼料
 牧畜業ノ發展上飼料問題ハ最モ重大ナル要素ナルコトニ鑑ミ左ノ飼料
 ヲ準備スヘシ

BII

乾草 「ソフホズ」 一一百萬「ヘクター」
 「コルホズ」 三〇百萬「ヘクター」
 「シロス」 「ソフホズ」 一〇百萬噸
 及「コルホズ」
 供給部ハ一九三一年收穫ノ飼料ヨリ集約飼育不足分補填ノ爲左記
 飼料ヲ交付スヘシ（單位百萬布度）
 内農務部「ソフホズ」へ
 油 一八 一五
 六〇 五〇
 穀物 一〇〇 九三
 集約的飼料資源増加ノ爲食品工業ノ屑物ヲ飼料ニ製造スルヲ必要
 ト認メ一九三一年下半年期及一九三二年製造高ヲ次ノ如ク決定ス（單

BII

E-0285

位千「ツエントネル」)

「ソユズサーハル」(製糖)	一五〇〇	甜菜殘糖
「ソユズルイバ」(魚類)	一一〇	魚粉 (ジヨーム)
「ソユズムヤソ」(肉類)	一五〇	肉骨粉
「タラアマロバトチノエ オプエジネニエ」(醸造)	四五〇	玉蜀黍殘滓
「ソユズスピルト」(穀粉)	七〇	パドラ
「プロジリノエ オプエジニエニエ」(醸造)	一〇〇	ドロピナ
同	五〇	砂糖

右飼料工業へノ投資額ヲ二千七百萬留トシ内一九三一年一千萬留殘額
ハ一九三二年上半年期ニ支出ス

B11

飼料工業ノ農務部所管内ニモ「コンピコロモフ」ナル「トレスト
」ヲ新設ス

「ソフホズ」ノ飼料受入ノ手續ヲ簡便ニスル爲「ソフホズ」ヲ「
エレバトル」製粉、製油工場ニ直接入籍法ヲ存続ス

最高經濟會議ハ林業工場内ノ「シロス」塔建築ヲ監督シ所定ノ「
プロダラム」ヲ實行セシムヘク農務部ハ「ソユズセリストロイ」(農
村建築「トレスト」)系統トシテ「シロス」建築設備指導ノ特別
事務所ヲ開設スヘシ右事務所開設費トシテ聯邦農務部豫備金ヨリ一
百萬留ヲ支出ス

畜産「ソフホズ」ノ建築計畫ノ實行全然不良ナルニ付十一月十五
日迄ニ家畜ヲ收容シ得ル様工事ヲ促進スヘシ

B11

E-0285

牛乳及同製品運搬容器不足ニ付手工業ヲ利用シ之カ製造ヲ速成ス
ヘシ

◎ 専門家

畜産専門家ヲ次ノ通り増加スヘシ

(A) 畜産「トレスト」及「コルホズ」商品農場ハ一九三二年中ニ各單位ニ亘リ左ノ人員ニ達セシムヘシ

「ソフホズ」

高等専門家

六一八人

中等専門家

一五一二〇人

「コルホズ」商品農場兩者ヲ合シ

二一三人

(B) 進期講習ヲ開設スルコト

(C) 新ニ組織セラルヘキ「ソフホズ」及舊「ソフホズ」改善ノ爲黨本

B11

部ハ一ヶ月内ニ新設畜産「ソフホズ」ノ「ディレクトル」或ハ「ディレクトル」代理タルヘキ相當人數ヲ農務部ニ移スヘシ

◎ 其他

民族的畜産地方(前遊牧地方ニシテ中央亞細亞、「カザクスタン」、「キルギジャ」、「ブリヤト、モンゴリヤ」、「カラ、カルパキヤ」、「ダゲスタン」、「カラムイキヤ」)ノ社會化畜産業ノ發展ノ爲供給部及農務部ハ穀物買付、作付、肉類買付及遊牧民定住案作成ニ當リ當該州及共和國ト共ニ本産業發展ニ資スヘキ左ノ方策ヲ講スヘシ

(A) 機械草刈場(M、O、C)ヲ一九三二年ニ三五〇ヶ所以上トス

(B) 從來牧畜専門地方ニ副業トシテ消費的作物及蔬菜ヲ栽培セシム

B11

E-0285

(C) 綿布、靴其多革、毛織製品ノ供給ヲ増ス
 (D) 家畜賣買特約ノ際必要量ノ穀物供給ヲ考慮スルコト
 (E) 最近二、三年間ニ獸疫ヲ根絶スルコト
 (F) 講習及中等學校ニ及リ地方民ノ畜産労働者ノ程度ヲ向上セシム
 ルコト

「レニングラドスカヤ」、「モンコーフスカヤ」、「ウラルスカヤ」諸地方及西伯利亞等ニ於ケル「ムヤソコンビナト」ノ建設地方ニ畜産「ソフホズ」網ヲ發展セシメ「ムヤソコンビナト」ヘ左記數量以上ノ家畜ヲ交付セシムヘシ（單位百萬頭）
 交付スルモノ 家畜ノ一九三 一九三五年
 種類 三年
 スウイノウオド 豚 六〇
 （養豚）

BII

「コンピナト」所要量ノ八〇%
 コルホズ養豚農場 豚 七〇
 スコトウオド 牛 一〇 一六（コンビナト「所要量ノ三分ノ一」）
 オフツエウオド 羊 一八 三〇（「コンビナト」所要量ノ三分ノ二）
 （養羊）
 前記ノ方策ニ關聯シテ農務部ニ支出セル長期信用資金ノ流用及長期信用資金豫備金ノ貸出ニ依リ各種機關ヘノ額ヲ左記金額迄増加ス
 （單位百萬留）

金 額
 「モロココルホズツェントル」（牛乳） 一六五〇
 「スウイノウオドコルホズツェントル」（養豚） 五五〇
 「インタバトロブチツェントル」 三八〇

BII

E-0285

(養豚養禽)

「オフツエウオド」(養羊)

一八〇

(二) 養豚業

養豚業發展ニ關スル第六回「ソウエト」大會及政府ノ決定遂行ニ關シ
聯邦實行委員會ハ一九三一年八月二日付ヲ以テ養豚業ノ缺陷ヲ指摘シ
當局ノ責任ヲ定メ大要左ノ決定ヲナセリ

一、「ヨルホズ」並ニ「ソフホズ」養豚業發展ニ關シ顯著ナル成功ヲ
收メ短期間内ニ「スウイノウオドトレスト」所管「ソフホズ」ノ總
豚數ハ五七五千頭ニ達シ春蒔作付計畫ハ一〇八%ノ實現ヲ見從テ飼
料ノ根據モ著シク確立シ「スウイノウオドヨルホズツエントル」系

統ニハ一萬餘ノ養豚商品農場組織セラレ所有總豚數六十六萬頭トナ
レリ之等成功ノ他面ニ尙幾多ノ缺陷アリ

二、「スウイノウオド」ノ缺陷トシテハ一九三〇年秋期ニ於ケル交尾運
動ノ不成績及一九三一年春期ニ於ケル養豚組織ノ不良、仔豚保存ニ
必要ナル注意ノ缺除等ニシテ責任者ハ夫々處分ス

三、「スウイノウオド」所管「ソフホズ」内ノ建設ハ甚タ不満足ニシテ
(年計畫ノ約二十%實行)新クテハ政府決定ノ期日本年十一月十五
日迄ニ建設「プログラム」ヲ實行スルノ覺東ナキコトヲ認ムルニ付
聯邦農務部ハ遲滯ナク其對策ヲ講シ十日間内ニ聯邦内閣ニ報告スヘ
シ

四、「スウイノウオドヨルホズツエントル」管理部並ニ地方機關ハ「コ

ルホズ」ト適時契約ヲ締結スルコトヲ怠ルモノアリ
新設養豚商品農場ノ爲ニ「コルホズ」内ニ飼料根據地ヲ創設スルニ
必要ナル手段ヲ講セヌ又養豚者準備ニ關スル政府ノ決定ノ實行ヲ怠
レリ(計畫ノ一四%實行)

四「ソユズムヤソ」及「ソフホズ」並ニ養豚商品農場ニ於ケル事業ハ
甚々不満足(「スウイノウオド」ヘ計畫一三%、養豚商品農場ヘ
三三%)ナルニ付供給部機關ニ依リ「ソフホズ」及「コルホズ」商
品農場ヘノ豚ノ適時ニ交付ハ社會化畜産業發展計畫遂行ノ根本條件
ナルコトヲ特ニ注意スヘシ

其多數地方機關ハ今尙養豚「コルホズ」商品農場ノ注意ヲ解セス必要
ナル指導援助ヲ給與セス又商品農場ニ於テモ勞働制度ノ改正ナク其

職務ニ對スル個人的責任制度確立シ居ラス

六聯邦農務部及「コルホズツエントル」ヲシテ一九三一年中ニ養豚業
發展計畫ノ完全ナル實行ヲ期シ「スウイノウオドトレスト」^{管理}部
及「スウイノウオドコルホズツエントル」ト並ヒ本事業ニ關シ聯邦
農務部參與官「チリコ」及「コルホズツエントル」議長代理「タタ
エツ」ニ個人的責任ヲ以テ本事業ニ當ラシムヘシ

(三) 養禽業

養禽業ノ發達ニ關シテハ曩ニ三月閣令ヲ以テ其方策ヲ定メタル處其實
施ニ付實行委員會ハ六月六日付決定ヲ以テ大要左ノ決議ヲナセリ
一 養禽業ノ發達ハ他ノ畜産業ニ比シ甚々遅レ其數戰前ノ半分ニシテ

殊ニ社會化部門ニ於テ甚ダシク本年ノ孵化事業ノ如キ開始ノ時期大ニ通レ其後ノ業績不良ナルニ付責任者ヲ處分ス

ニ 機關新聞「社會主義農耕」ノ「カムベイン」ニ對スル活動不充分ナリ

三 孵化器製造及供給不完全ニシテ孵化事業ノ進捗ヲ阻礙セリ

四 本事業ノ聯合機關カ中央機關「ウタクル」ヨリコブチツエツエントル「ウタライナ」養兔會聯合ナルハ不當ナルニ付可然改正ヲナスヘシ

五 本年ノ養禽發展計畫實行並ニ農務部ノ注意ヲ増ス爲メ左ノ通定ム

(A) 農務部ハ十日以内ニ孵化期繼續案ヲ作製シ

(B) 供給部ハ養禽「ソフホズ」ニ種卵ヲ供給シ孵化器全部ヲ利用セ

シムルコト

(C) 農村建築組合ハ養禽上必要ノ建築ヲ速成スルコト

(D) 孵化器ノ供給ヲ完成スルコト

人工孵化、「コルホズ」ヨリ「ソヌズブチツエプロツクト」(鳥肉聯合)へ家禽賣渡及其養禽ノ發達ヲ圖ル爲メ七月九日付供給部決定ヲ以テ左ノ「ブレミヤム」ヲ與フルコト、セリ

一 鳥納入月「プラン」以上ニ納入セルモノハ納入價格ノ二%

二 雛「コルホズ」カ共有雛ヲ納入スル場合第三期ニハ一羽ノ重量五百瓦第四期ニハ九百瓦ヲ超ユルトキニハ其超過量ノ價格ノ五%

三 鳥ヲ「ソヌズブチツエプロツクト」ニ對シ共同的ニ納入スルトキハ一疋ニ付二哥ヲ割増ス

BII

BII

E-0285

五 財政金融

(一) 上半期ニ於ケル收支状況

本年ノ財政計畫總額ハ三百十九億留ナルカ其中上半期分百三十億留第三期分九十億留ノ豫定ナリ
財政計畫歳入ノ部ニ於テハ國營經濟機關ノ利益及償却等社會化經濟ノ資金ニ屬スル高百三十四億留及取扱高稅約九十四億留ハ重要ナル科目ナルカ其收入ハ國營經濟機關殊ニ工業及交通ノ生産財政計畫ノ成績如何ニ依倚スルモノナリ

BII

社會化經濟ノ資金中工業ヨリノ收入ハ四十億留ナル處本年上半期ノ工業ハ生産高ニ於テ豫定計畫ノ約八割、質的計畫ノ原價ノ低下率一〇%（低下ノ年額十八億留）ハ豫定計畫ヲ實現セサルノミナラス二%ノ増加ヲ來シ冷金ノ如キハ一割餘ノ増加ヲ來シタリ運輸ノ收入ハ年約三十億留ノ處上半期ノ成績ハ七、八割程度ニシテ運輸費低下ノ豫定モ又實現セラレススノ如ク大ナル財源ヲ有スル企業ノ計畫ニ於テ質量共ニ大缺陷ヲ生シタルコトハ財政上ニモ影響スルコト勿論ナリ
同様ニ國營企業ノ取扱高ニ對スル稅ノ收入モ生産高ノ豫定計畫實行未能ノ爲メニ減少セリ

次ニ所謂民間資金ノ動員ニ依ル收入年額六十億留内第一期十五億五千萬留第二期十三億留第三期十八億留ノ豫定ニ對スル実績ニ付テハ第一

BII

期ハ六八%第二期中四月ハ豫定ノ五億一千六百萬留ニ對シ六一三%、五月ハ豫定ノ五六%、六月六四%ニシテ第三期ニ入り七月ハ財務部機關新聞報ニ依ルニ六九三%ニシテ其徵收不能額ハ一億五千萬留ニ及ヘリトノコトナリ即チ本年七ヶ月間ノ徵收不能高ハ合計十一億留ヲ越ヘル計算ナリ

上半期支出ノ實施振ニ付キ財務部機關雜誌所報ニ依ルニ支出ハ滯リナク完全ニ遂行シ就中最高經濟會議所管工業ニ對スル支出ハ上半期分四六七九百萬留ノ豫定ニ對シ實際四七四二百萬留即チ六三三萬留ヲ超過支出シタリ工業カ量質共ニ其「プラン」ヲ實行シ能ハサリシ結果生シタル缺損ハ國家豫算ヨリ一三三三萬留ヲ融通シ尙「ゴスパンク」ヨリ「クレジット」ヲ追加シテ支辨シタリ

BII

右工業ノ運轉資金トシテノ支出ニ付テハ工業カ質的「プラン」未遂行ノ爲メ豫定ノ二八二九百萬留ノ代リニ三二〇五百萬留即チ三七六百萬留ヲ超過支出セリ此ノ超過支出額ハ一部ハ一般財政計畫ノ擴大即チ増税ニヨリ他ハ投資費ヨリ融通補填セリ

大建設費支出高ハ上半期中豫算ノ四三三%ナルカ工事ノ出來高ハ豫定ニ及ハス支出セル費額ニ相應セサルモノアルモ兎ニ角之ヲ調辨セリ

交通運輸及農業ニ對スル支出ニ付テハ運輸ハ收入豫算ニ不足シ農業ハ農民資金ノ吸收及農業貸下金ノ回收豫定以下ナリシニモ不拘支出計畫ハ實行セリ

各四半期ニ付テ見ルニ第一期ニハ收入不足シ舊「クレジット」法ノ爲メ各種ノ困難有リ鐵道運費、取扱高税及穀酒税(ウオトカ)ノ引上ケ住

BII

E-0285

宅建設ニ對スル臨時稅等ヲ施行セルモ同期ニ於テハ其ノ効ヲ見ス、第二期ニハ右増稅ノ收入増加、豫算ヨリノ融通並ニ企業ニ對スル「クレデト」法ヲ改正セル爲作業ニ對スル財政經理容易トナレリ「ゴスパンク」モ三月二十日付ノ「クレデト」改正ニ關スル「デクレト」實施ニ依リ從來ノ國營企業ニ對スル貸越シニ依ル困難ヲ解決シ數億ノ各支店間勘定ヲ清算スルノ域ニ入レリ

國營企業ノ大建設事業ニ對スル金融ヲ目的トスル聯邦工業及電化長期信用銀行ノ「ゴスパンク」ニ對スル負債ハ第一期ニハ非常ニ高クナリシモ第二期ニ入り數億留ヲ液シ建築ニ對スル金融法改正ノ爲メ未使用ノ分一億五千萬留ヲ残セル程ナリ

長期信用銀行ノ上半期ノ業績ニ付テハ國家豫算ヨリ受入ルヘキ資金第

B11

一期六六二百萬留第三期一、二四五五百萬留計一、九〇八百萬留ハ全部受入済ミニシテ工業自身ノ投資々金ノ上半期豫定額ハ三八一百萬留ノ處實際ニハ其七六六％年額ノ二四％即チ二九六百萬留ナリキ支出ノ部ニ於テハ第一期七七〇九百萬留第二期一、三一〇三百萬留計二、〇八二二百萬留ニシテ豫定年額ノ四一七％上半期分ノ八七五％ヲ融通セリ

B11

(二) 國營企業ノ財政金融

「ソ」聯邦國民經濟ノ生産額ハ非常ニ増大シ驚クヘキ「テムボ」ヲ以テ發展シ居リ五年計畫ニ豫定セル高ヲ超過シツ、アルコトハ事實ナリ然レトモ生産ノ組織カ擴大シ複雑トナレルニ從テ各方面ニ缺陷ヲ生シ工業及運輸ニ於テハ本年上半年ニ於テ統制數字ノ豫定ニ及ハサルモノ

大多數ナリ各企業ニ對スル金融モ當初ハ無制限ニ行ハレタルモ生産組織ノ範圍カ擴張スルニ伴ヒ從來ノ金融方法ヲ續行スルコト困難トナリ之カ調整ヲ圖ルヲ必要トスルニ至リ政府ハ昨年來其方策ヲ講シ又企業ノ内部營業狀態ヲ改正スル爲メ各企業ノ獨立會計主義ヲ樹立シ本年ノ産業缺陷大ナルヲ見テ更ニ金融財政上幾多ノ方策ヲ講スルニ至レリ依テ最近政府ノ採リタル此方面ニ關スル方策ニ付キ下ニ記スヘシ

國營企業ノ營業狀態

「ソ」聯邦國營企業ノ營業狀態殊ニ損益ノ内狀ニ付テハ外^附ニ現^在タル材料需ニシテ明ナラサルカ財務部機關雜誌ニ記載セラレタル西部西伯利林業「トラスト」ノ例ハ其間ノ消息ヲ漏ラスモノト認メラル、

ニ付之ヲ左ニ引用スヘシ

「トラスト」ノ決算報告ハ一九二九—三〇年度分カ本年五月中旬漸ク作成セラレ特別期ノ分ハ未タシ

一九二九—三〇年度營業ハ缺陷ニシテ其重ナル缺陷科目ハ

商品賣却	一三七一	千留
材料價格ノ不足	三三六	千留
營業費	七五五	千留
一般管理費	五一九	千留
利息	一四九六	千留
作業停止損害	一三四	千留
疑ハシキ債權及希望ナキモノ	四二八	千留

等ヲ記載シ理事會ハ之ヲ前年度ノ計算違、原料不足ノ爲メ作業停止等
不止得モノトセリ

一、本年ノ財政計畫ハ未認可ヲ經ス其各四半期豫算ニ付テハ「トラス
ト」ノ作成セルモノト之カ聯合機關タル聯邦林業聯合ノ作成セルモノ
トノ間ニ大差異アリ商品賣上高ニ付第一期分「トラスト」ノ計畫ハ六
八一四千留、聯合ハ八四〇〇千留トシ第二期分ハ前者ハ一三、六四二千
留、後者ハ六、八四七千留トナリ第一期損失現計ハ聯合ハ二、〇五九千
留、「トラスト」ハ一、六〇一、一千留トセリ

二、「トラスト」ノ國營銀行ニ對スル負債ハ一九三〇年一月一日八百
五十萬留ノ處本年一月一日ニ八、二千四十四萬留七月一日ニ八、四千百十
八萬留トナレリ

BII

一、生産計畫ノ實行モ不成績ニシテ本年上半期ノ實行高ハ伐採五八%
、撥出四八%、後組立ヘノ撥出六七%製材三一%ナリ商品賣却ハ上半
期中年豫定額ノ一七、八%ニシテ後流出モ不良、生産費モ豫定ノ低下率
ハ實現セラレサルノミナラス増加セリ

二、斯ノ如キ成績ニテ本年ノ商品賣上高豫定ハ六千六百六十七萬留ナル
ニ依リ取扱高ニ對スル税金ノミニテモ其三五、二%即チ二千七百七十萬留
トナリ又計算法モ全然不完全ニテ薪一立米ノ計畫價格ハ五留二十哥ニ
對シ賣値ハ四留二十哥トシアルヲ以テ此分ノミニテモ百七十四萬留ノ
損失アリ本年モ多額ノ缺損ヲ來スコト必セリ
斯ル類例ハ他ノ企業ニモ多々アルヘント思ハル

BII

E-0285

經濟機關ニ對スル金融法改正

國民經濟社會化部門ニ對スル金融法ハ一九三〇年一月三十日付「デク
レツト」ニ依リ從來ノ手形ニ依ル商業金融ヲ廢シ銀行ヨリ直接金融ス
ルコトニ改正シ且ツ其範圍ヲ國家銀行カ最高經濟會議ト協議ノ上作成
スル「クレヂツト」計畫ニ依リ其豫定ノ範圍ニテ各企業ニ直接金融ス
ルコトニ限定セリ

右改正法ハ實行ニ當リ銀行及經濟機關共其趣旨ヲ正解セス弊害ヲ生シ
タルヲ以テ一九三一年一月十四日及三月二十日付閣令ヲ以テ之カ實施
改善方策ヲ定メ五月一日ヨリ實施セリ右弊害ニ付テハ三月二十日付閣
令中ニ左ノ通り指摘セリ

BII

金融改正實施ニ當リ一方指摘不充分殊ニ其實施準備金然不足ナル結
果他方直接防害アリテ本改正ノ根本問題ヲ誤リタリ其結果生産計畫
ノ實行ニ對スル留ヲ以テスル統制ノ強化及社會化部門全機關ニ蓄積
ヲ見サリシノミナラス却テ獨立會計主義ニ違背シ經濟機關ノ財政及
財政的規律ヲ薄弱ナラシメタリ其重ナル缺點左ノ如シ

企業及機關ノ各個別取引ニ對シ金融スル唯一正當ナル方法ノ代リ
ニ「プラン」ニ對シ直接概括的ニ金融セル爲メ銀行ヨリ「プラン
」實行過程統制ノ可能ヲ渡却セル所謂「オウトマチズム」ヲ生
シタリ

企業ト聯合（賣手ト買手）間ニ契約關係ヲ設定セル爲メ品質、品
揃、納入期限、決済條件等ノ問題ニ付需要者側ヨリスル納入者（

BII

賣手)ニ對スル統制ヲ薄弱ナラシメタリ

三、獨立會計ニ違反シ且ツ其利益ト運轉資金トヲ混同セル爲メ經濟機關ヲシテ其財政的の結果(原價ノ低下、利益ノ蓄積等)ニ對スル「インタレスト」ヲ弱メタリ

四、國家銀行モ新法實施上技術的ニ無準備ニシテ手數ヲ不必要ニ複雑ニセル爲メ生産及流通ノ過程ニ對スル留ヲ以テスル實際的統制ヲ出來得サラシメタリ

依テ一九三一年一月十四日ノ閣令ハ右ノ改善方策ヲ規定セルモノナルカ同命令ハ

銀行カ金融ヲナス場合ニハ各個ノ賣買契約ニ基キ賣手方ノ請求ニ對シ買手方ノ同意(アセプト)又其依頼(アクレヂチフ)アルモ

ノニ限り買手方ニ與ヘラレタル「リミット」ノ範圍内ニ於テ支拂ヲナス

コトニ限局シ商品擔保貸付ハ普通ノ場合之ヲ許サス運輸困難又ハ「コンウエーションヨナル」ノ禁止ノ場合ニノミ之ヲ認メ其「クレヂット」額ハ商品ノ計畫原價ノ七割五分ヲ限度トスルコトヲ定メタリ

三月二十日付閣令「金融方法、金融業務ノ充實及各經濟機關ノ獨立會計ノ保障變更ノ件」ハ本法改正ノ趣旨ニ付キ

社會主義建設及經濟ノ計畫主義組織ノ成功「ソウエト」經濟ニ於ケル資本主義分子ノ驅逐及個人的分子ノ活動範圍ノ縮少ニ依リ全國民經濟ノ商業的(手形)金融ヨリ國家銀行ヲ經テ實現スヘキ直接銀行金融ニ移ルコトヲ得又之ヲ必要トスルニ至レリ金融改正ハ

BII

BII

全社會化部門ノ經濟機關管理上重要ナル^榊桿^{トシテ}獨立會計ヲ基
 礎トシ全然獨立會計ニ依リ經濟計畫ノ實行及社會化部門内^積蓄積ニ
 對スル留ヲ以テスル統制及各企業自身ノ計畫ノ遂行生産ノ合理化
 、原價ノ低下、利益ノ蓄積ニ對スル經濟的「インテレスト」ノ増
 加ヲ保障スヘキモノトス
 卜述へ前記金融改正實施上從來アリタル弊ヲ舉ケ銀行ノ役目ト獨立會
 計制度ノ樹立^方策ヲ規定セリ
 國家銀行ノ役目ニ付テハ本法ニハ從來同銀行カ權限外ナル生産過程調
 節整理ノ任務ニアルカノ如キ營業振ニシテ爲メニ經濟關係人民委員部
 モ經濟機關モ無責任トナリタルコトヲ舉ケ其役目ニ付キ左ノ通り決定
 セリ

BII

一 社會化經濟ノ決濟機關、產物ノ生産及分配調査ノ國家機關タルコ
 ト
 二 商品ノ生産及流通計畫實行度、社會化部門ノ財政計畫ノ實行及蓄
 積度ヲ留ヲ以テ事實上毎日統制スルコト
 三 企業及經濟聯合ノ獨立會計ヲ全社會化部門ニ於テ計畫(量質共)
 實行ノ基礎的榊^{トシテ}鞏固ニスルコト
 企業ノ獨立會計
 各企業及經濟機關ヲ獨立會計トシテ社會化部門經濟機關相互間ノ物品
 賣買代金及貸借決濟ノ形式ヲ設定スヘキ主義ハ一九二九年十二月五日
 付共產黨本部ノ決定ヲ以テ確立セラレ一九三〇年一月三十日付「クレ

BII

E-0285

「デット」改正ニ關スル「デクレット」、同年四月十日ノ黨本部ノ決定、本年一月十四日付及三月二十日付「デクレット」ニ依リ其實行ヲ勵行シ又「スタリン」ハ本年六月ノ演說ニ於テ此方法ノ勵行ヲ強調スル處アリタリ

三月二十日付「デクレット」ノ本件ニ關スル規定ハ最モ具體的指示ヲ與ヘタルモノナルカ右規定ノ要項左ノ如シ

一、國家、經濟及「コオベラチフ」各機關及企業ハ其計畫ノ範圍内ニ於テ契約締結及註文發受ノ方法ヲ以テ商品受渡、業務執行及便宜給與ノ關係ヲ設定シ之ニ對シ責任ヲ負フコト

二、「クレヂット」「リミット」ハ國家機關之ヲ定メ國家銀行ハ其「リミット」ノ限度内ニ於テ契約ニ定メラレタル範圍内ノ「クレヂット

一、ヲ開キ經濟機關ノ委託ヲ其開カレタル「クレヂット」ノ範圍内ニ於テ契約ノ實際履行ノ度ニ應シテ實行ス

三、決済ノ形式ハ契約書ニ記載シ銀行ハ右ニ依リ「アクセプト」「アクレヂチーフ」又ハ特別勘定ノ手續ニ依リ其委託ヲ履行スヘク此場合可成「アクセプト」ノ形式ヲ可トス

四、經濟機關ノ節約必要ヨリ生スル特別運轉資金トシテノ金融ハ調節的の手續ニ依リ一定期間ヲ嚴ニ限リ產物ノ實際製出ヲ義務トシテ返済ヲ約シタルモノニ限ル

五、買付機關ニ對スル「クレヂット」ハ調節的の手續ニテ買付物產ノ實高ノ範圍内ニ於テス

六、經濟機關ノ大多數ハ國家機關ナリト雖トモ其損失ハ如何ナル場合

BII

BII

五モ銀行資金ヲ以テ補填スヘカラス
七 經濟機關「ゴオペラチフ」機關ハ法律ノ定メタル期限ニ業務成績
「パランス」ヲ作成スヘシ之ヲ怠リタルモノハ其指導者及調査當務者
ニ罰金ヲ課シ銀行ハ金融上勢力ヲ加フ
九 經濟機關ノ義務不履行ニ對スル制裁ハ支拂ノ一部又ハ全部ヲ停止
シ又ハ強制手段ニ依リ商品又ハ有價物件ヲ賣却ス
然シ企業ノ獨立會計ハ其施行ノ範圍ニ於テモ又運用ニ於テモ充分ナラ
ス殊ニ銀行ヨリノ金融力嚴重ニ限局セラレ取扱高稅ハ當初ノ膨大ナル
計畫ニ基キ定メラレタル歩合ヲ以テ多額ノ納入ヲナシ又相互間入決済
ノ必要アル爲メ急場凌ニ勢銀ノ支拂ヲ延滞スル企業アルヲ以テ八月
中旬及政府監察機關ハ給料支拂監督ヲ特命シ支拂延滞ニ對スル制裁ヲ

BII

定メタリ然レトモ從來ノ例ニ順ミルトキハ勞銀ヲ遲滞ナク支拂フコ
トハ困難ニシテ「オデツサ」ニ於ケル勤務者ノ如キ經濟機關勤務者ト
雖モ昨年十一月半ニ三ヶ月分ノ給料延滞分ノ支拂ヲ受ケ其後又停滞シ
八月一日ニハ延滞給料全部ヲ支拂フヘントノコトナリシモ遲レテ三回
ニ分割支給ヲ受ケタル程ナリ
企業間ノ商品賣渡代金ノ支拂並ニ債務ノ償却滞リ銀行ニ金融ヲ求ム
ルモノアルモ曩ニ労働國防會議ハ六月十六日付ヲ以テ債務者ニ對シテ
ハ商品賣渡中止其他ノ制裁法ヲ定メタルカ其効果薄キヲ以テ最高經濟
會議ハ八月二十四日付命令ヲ以テ罰令ヲ發スル處アリタリ
獨立會計機關ト國家豫算ノ關係ニ付テハ本年七月一日ヨリ實施セラレ
タル四月三十日付交通部及其所管獨立會計機關ノ財政經理手續ノ原則

BII

E-0285

二 關スル勞働國防會議ノ決定ニ左ノ規定ヲ設ケタリ
 一 一般聯邦豫算ニ屬スヘキモノ
 歳入
 (一) 鐵道總收入ヨリ營業費ヲ控除セル純益
 (二) 交通部所管內獨立會計ニ依リ營業スル機關ノ利益納金
 歳出
 (一) 鐵道ノ建設費及運轉資金ノ充實費
 (二) 一般聯邦道路基金
 (三) 從業員養成費及科學研究事業費
 (四) 交通部中央及地方管理局維持費
 三 聯邦豫算ヨリ支出スヘキ金額ハ銀行ニ於テ開設セラレアル交通部

BII

ノ特別、保險、鐵道營業及建設、從業員養成及研究事業及聯邦道路
 基金ノ五口座ニ直接配分ス
 (保險勘定ハ鐵道純益ノ一割トス)
 獨立會計ハ各企業ノミナラス企業內各部組等ニモ適用セラレ當局ニ於
 テハ生産ノ向上ヲ圖ル爲メ之ヲ奨勵シツ、アリ
 運轉資金
 經濟機關ノ獨立會計主義ノ勵行ト共ニ之ニ對スル金融法改正ノ結果當
 然ノ必要トシテ各企業固有ノ運轉資金問題解決ノ必要アリ依テ本件ニ
 關シ三月二十日付「チクレット」敷衍トシテ七月二十三日付勞働國防
 會議ノ決定アリタリ

BII

右決定ノ趣旨ニ付テハ同決定中ニ「クレジット」改正法運用ノ缺點トシテ經濟機關ハ銀行ヨリノ借入金ヲ以テ營業シ居リ自己ノ運轉資金ト混同シ居ル爲メ其經濟能力及操作能力薄弱トナリ他方事業ノ財政的結果ニ對スル「インテレスト」ヲ弱メタル爲メ之ヲ修正スル方法トシテ本決定ヲナス旨ヲ記載セリ

同決定ノ要項左ノ如シ

一、運轉資金ノ額ハ原料、補助材料、燃料、各種製品等ノ手持高並ニ生産商業計畫ヲ遂行スルニ必要ナル將來ノ出費ノ最少限度ノ保有ヲ保障スルニ必要ナル資金ニ應シテ之ヲ定メ鐵道ニ付テハ其營業及建設ニ必要ナル金額ニ應シテ之ヲ定ム

二、運轉資金ハ經濟關係人民委員部カ所管聯合ニ付テ定メ聯合ヲハ之

B11

一、其所屬獨立會計ノ企業及機關ニ配分シ各企業ノ分ヲ確定シ人民委員部及聯合ハ其所屬ニ依リ一割迄ヲ未配分ノマ、豫備金トシテ殘シ置クコト其外個々ノ場合ニハ一ヶ月ノ期限内ニテ一割迄ノ金額ヲ所屬聯合又ハ企業ノ間ニ於テ一時融通スルコトヲ許サス

二、運轉資金ノ増加ハ企業自身ノ蓄積ト國家及地方豫算ニ依テ之ヲ爲シ其額及財源ハ財政計畫作成ノ際之ヲ定ム

三、國家銀行ハ企業ニ對スル短期「クレジット」ハ一時的必要ノ場合ニ對シ返濟條件ノ確實ナルモノニ限ル

四、計畫以上ニ原價ヲ低下シ資金ノ回轉ニ依テ得タル資金ハ當該企業ノモノトシ營業年度内ハ之ヲ建設方面ニ使用スルコトヲ得ス

五、運轉資金額ハ一九三一年ノ財政計畫及同年初ノ「バランス」ニ依リ

B11

リ之ヲ定メ八月十五日迄ニ勞働國防會議ノ認可ヲ受ケ認可アリタル
トキハ直ニ之ヲ其所屬企業ニ配賦ス

企業利益ノ國庫納金率ノ變更

國營企業ノ獨立會計ヲ強化シ企業ヲシテ豫定ノ量及質計畫遂行ニ「イ
ンテレスト」ヲ持タシムル手段トシテ政府ハ義ニ一九三〇年九月二日
付「デクレット」ヲ以テ定メラレタル國營企業ノ利益ノ國庫納金ノ歩
合ヲ五月六日付「デクレット」ヲ以テ改正セリ

右國庫納金ハ所得稅ヲ含メルモノナルカ新舊率ヲ比較スレハ左ノ如シ

新	工業、農業、運輸及市企業	一〇%	水運	三〇%
舊				

「ゴスバンク」及其他ノ銀行 五〇% 其他ノ各企業 八一%

商業 八五% 「ゴスバンク」 五〇%

商業及其他ノ銀行 八四%

本法ノ適用ヲ受クヘキ國營企業ニ付改正法ハ舊法ノ單ニ獨立會計ニ依
ル國營企業トアルヲ一般國家及地方豫算ニ依リ「ファイナンス」セラ
ル、國營企業ト豫算ノ「ファイナンス」ヲ受ケサルモノトニ分テ前者
ニハ右ノ率ヲ以テシ後者即チ豫算ニテ「ファイナンス」セラレレサ
ル企業ニ在テハ其蓄積カ建設費及自己ノ運轉資金ノ増加額ヲ超過スル
トキハ其二割引上ノ高率ヲ國庫ニ納入スルコト、セルモ本年中ハ從來
通りトセリ

本改正ニ依リ工業、農業及鐵道並ニ市政事業ハ其利益ノ從來ノ八一%

ニ比シ一〇%ヲ國庫ニ納入スルコト、ナリ利益ノ大部分ハ其企業ノ資
 金トシテ企業ノ手許ニ殘ルコト、ナル次第ナリ
 本改正ノ財政上ノ効果ハ中央所管工業ニ於テハ第三期ヨリ現ハルヘキ
 モ地方的工業ハ地方豫算ノ關係上第三期ヨリ實施シ難キニ付第四期ヨ
 リ實施スルコト、ナルヘシ

税率ノ改正

社會化部門ノ企業ニ對シ一九三〇年九月三十日付「デクレット」ヲ以
 テ取扱高ニ對スル稅ヲ設定シ四十五聯合ニ對シ夫々税率ヲ定メ其後國
 庫收入増加ノ目的ヲ以テ本年二月二十七日、三月十八日及五月三日付
 「デクレット」ヲ以テ部分的改正ヲ加ヘ一般ニ税率ヲ引上ケタルカ七

BII

月九日付「デクレット」ヲ以テ之ヲ廢シ昨年九月三十日付「デクレツ
 ト」ニ依ル税率ニ復シ引_下ケテ行ヘリ
 右ノ改正ニ關シ財務部長「グリニコ」ハ本改正ハ經濟機關ノ獨立會計
 主義摘要ノ條件及各個々ノ商品及各個營業ノ個人性ニ適合セシムル趣
 旨ヲ以テセルモノナル旨説明シ居レリ

右税率改正ヲ比較スルニ左ノ如シ(取扱製造高ニ對スル%)

聯合ノ名稱	實施期	三月一日	五月一日	七月九日	八月一日
裁縫		二六九	◎二四八	一五八	
皮革		三三四	三九七	二六七	
「ゴム、アスベスト」		二八七	三九六	二三四	

BII

一九三一年財政計畫ハ貯金局預金四億留ヲ得ル豫定ニテ政府ハ二月一

金屬製品	一七二	二〇〇	一〇〇
硝子陶業	一九〇	二五〇	一三〇
獸脂、化粧品、骨製品	三七五		七三九
煙草	七四七	八三三	七二五
石油及瓦斯	三六〇	三九五	三三〇
農業食品	三三八		二九九
織物	三四二	△四〇九	二六二

備考 ◎印ハ三月十八日付改訂 △印ハ「メリヤス」業

(二) 貯金状況

日付閣令ヲ以テ貯金局ノ事業及其發達ニ關シ一九三〇年ノ預金者千二百萬人其預金高五億留ナルモ右ハ國民所得ノ増加ニ相應セス又社會主義的建設案ノ要求スル國民ノ蓄積動員ノ目的ニハササルモノアルニ付貯金局ノ事業ヲ改善シ之ヲ勞農大衆ノ奉仕ニ近寄ラシムルヲ必要トシ左記事項ヲ決定セリ

- 一 一九三一年中ニ貯金局數ヲ五萬、内村落ニ三萬五千ヲ設ケ主トシテ工場、「ソフホズ」、「コルホズ」、軍隊等ニ新設スルコト
- 二 各「ライオン」及市「ソウエト」ハ勞務者全部ヲ預金者トスル等ノ模範企業ヲ一ケ所作ルコト
- 三 市村「ソウエト」、「ライオン」執行委員會並ニ「コルホズ」ニ對シ聯邦財務部保障ノ下ニ貯金局預金ノ純増加額ノ一五%ノ長期貸

E-0285

下ヲ許ス

貯金局制度ヲ模範的ニセルモノニ對シテハ賞與ヲ與フルコト、シ
一九三一年中貯金局純益金中ヨリ三百萬留ヲ支出シ之ニ充ツ
其外預金獎勵ノ人員ニ關スル規定ヲナセリ
本年上半期ノ實績ニ付キ財務部機關雜誌記事ニ依ルニ本年一月一日現
在局數三六五九六局預金者數千四百萬人預金額七億二千二百萬留ナリ
シカ貯金局數ニ付テハ地方機關ハ新設局數ヲ政府所定數ヨリ増加シテ
本年中全國總計五四一五六局内村落三八七五〇トシ上半期ニ七五%ヲ
開設スル計畫ナリシカ實際ハ村落ニ於テ八一六、七五〇局ノ代リニ八七
三〇局ニシテ都市ニ於テハ三、九五〇局ヲ開設シタリ
貯金局預金高ハ上半期豫定額二億三千萬留ニ對シ一億二千一百萬留ア

BII

リ即チ年額豫定ノ三〇%ニシテ之ヲ内稱スレハ都市三五五%村落二四
%ナリ

右不成績ノ原因ハ當局ノ怠慢、制度ノ不完全ニ在リト當局者ハ稱シ居
ルモ人民力之ヲ欲セサル爲ナラン

第三期エ入りテ貯金局預金成績ハ不成績ニシテ「オデツサ」市ノ如キ
八月二十五日迄ノ貯金高十萬一千留ニシテ豫定高五十萬二千留ニ對シ
三割ナリ

BII

(四) 公債應募狀況

本年六月發行ノ「五年計畫第三決定的年公債」ノ應募高ハ財務部ノ發
表ニ依ルニ八月二十日現在十七億四百三十萬留ニシテ財務部豫定ニ對

シ一〇〇八%、政府ノ認可セル豫定ニ對シテハ一〇六五%ニ當ル
 各聯邦共和國ニ付テ見ルニ豫定以上ノ應募アリタルハ「ウクライナ」
 及後高架索ノミニシテ他ハ豫定ニ達セス最モ不成績ナルハ「タジクス
 タン」ノ四八一%ナリ
 部門別左ノ如シ（單位百萬留）

八月十日

八月二十日

對「プラン」 對「プラン」

勞務者	二二四三三	一一三一	一一四〇
其他ノ都市住民	九五六	九八三	一〇〇七
農民	三〇〇五	六〇八	
内コルホズ員	二五三一	九九八	一〇七六

BII

個人農家	四七五	一九七	一九八
赤軍	三〇三		
計	一六六八八		

右ノ如ク都市殊ニ組織セラレタル労働者及勤務者ノ應募成績ハ良好ニ
 シテ其應募額ハ全體ノ約七四%ヲ占ム
 村落ニ於ケル應募成績ハ頗ル不良ニシテ八月ノ二十日間ニ「コルホズ
 」會員ハ五千六百萬留餘ノ申込ヲナシ豫定以上ノ應募ヲナシタルモ個
 人農家ニ至テハ僅カニ七百萬留ニシテ豫定ノ二割ニ達セス之カ爲メ村
 落ニ於ケル應募高ハ豫定ノ五億留ニ對シ約一億八千萬留ノ不足ヲ見タ

BII

E-0285